

令和7年度

# 研究集録



北海道PTA連合会

# 目 次

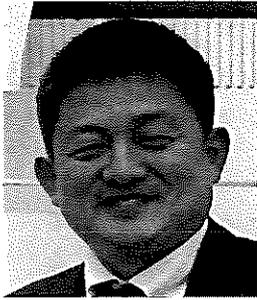
研究集録の発刊にあたって	北海道PTA連合会 会長 廣瀬 堅 一
I. 令和7年度北海道PTA連合会活動の基本方針と目標	1
II. 研究推進計画の全体構想	3
III. 委員会の活動	4
1. 組織・教育委員会の取組	5
2. 子育て委員会の取組	7
IV. 地区研究大会	
1. 地区研究大会の実施状況と概要	9
2. 運営面の「工夫・改善」「成果と課題」	14
3. 内容面の「工夫・改善」「成果と課題」	19
V. 地区子育て研修会	
1. 地区子育て研修会の実施状況と概要	23
2. 運営面の「工夫・改善」「成果と課題」	27
3. 内容面の「工夫・改善」「成果と課題」	29
VI. 第72回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会	31
VII. ブロック連絡会	40
VIII. 全道広報紙コンクール	42
◎巻末資料	44
◎編集後記	50

表紙：『 宗谷岬 』

※（ ）の様に表記していることがあります。

日本PTA全国協議会（日P）	北海道PTA連合会（道P連、道P）
地区PTA連合会（地区P連、地区P、稚内市は地区連P）	
市町村PTA連合会（市町村P連）	単位PTA（単P）

## 「研究集録の発刊にあたって」



北海道PTA連合会

会長 廣瀬 堅一

日頃より北海道PTA連合会の活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。このたび、令和7年度の研究集録を発刊することとなりました。北海道PTA連合会では基本方針と大切な事業の一つとして研修活動を充実させることにして、その活動の足跡を集めたものがこの研究集録であり、PTA会員の皆さんの学びのようすがここに詰まっています。

子どもたちは毎日力いっぱい自分の夢にむかって生きています。その子どもたちの健全な成長を願う教職員や保護者は、日々どうすれば子どもたちが安心して過ごし学び続けていけるのかを必死になって考えています。その思いや考えはとても大切です。ただ、一人で学んでいたり、一人で行動したりしているのでは、その成果は残念ながら大きなものにはならないと思います。やはり身近な仲間と学び合い力を合わせて活動したほうがより子どもたちにとってよいことが起きると思います。それができる身近な場所、それがPTAという組織ではないでしょうか。そしてお互いに学び合える場が研修会や研究大会だと思います。PTAのあり方が話題となることも多いですが「教職員や保護者が子どものために一緒に学びあう」というこの一点だけでもPTAの意味があり研修の場が大切なのだということが身をもって感じられるはずです。

学びあうことは自分の知恵や知識が増えるということだけではありません。お互いに学びあうことで仲間ができ、いっしょに話したり行動したりする輪が広がっていきます。「よこのつながり」が強くなっていきます。子どもたちが楽しくすごしていけるようにという同じ思いをもったPTAに集う人たちの「よこのつながり」は学び以上のものを生み出してくれます。そのためにどういう学びの場があるといいのか、自分の身近にいない人たちはどんな学びをしているのか、多くの人がこの研究集録を参考に自分たちも活動できるようにしてもらえるとありがたいです。ぜひここに載せられたことをもとに、お互いに学びあう研修の場を充実したものにして、さらにPTAの意味や価値を改めて見いだせるヒントとしていただければとてもありがたいと感じています。

最後に、本研究集録の作成にあたりましてご尽力いただきました、第72回宗谷管内・稚内大会実行委員会の皆様、地区P連事務局長ならびに研修担当の皆様、委員会の企画運営にあたっていただいた教師代表委員の校長先生におかれましては多大なるお力添えをいただきましたことに心より厚く御礼申し上げます。これからも会員が積極的に学び、意欲を持って参加できるような研修が行えることを願って研究集録発刊にむけての挨拶とさせていただきます。

# I. 令和7年度北海道PTA連合会 活動の基本方針・目標

## 1. 基本方針

私たち大人は、研修活動等の充実を通して、子どもたちの未来を見据え、子どもたち自らが社会の課題や変化に対応できる「生きる力」の育成に努めなければなりません。そのために、一人ひとりの多様な幸せと社会全体の幸せ、ウェルビーイングを支える要素となる学習環境、家庭環境、地域との繋がり、それら環境整備の充実と改善を図り、ウェルビーイングの実現と持続可能な社会の実現を目指し、私たち自らが意識改革・行動変革に積極的に向き合い、子どもたちの範となる行動を示していくことが大切です。

上記の点を踏まえ、次の4点を基本方針として推進します。

- 家庭教育及びPTA活動の資質向上に資する研究大会や研修活動などの充実をとおり、豊かな心をもった子どもの育成に努めます。
- 本道の教育振興のために、関係団体や地区P連・市町村P連・単Pと緊密な連携を図り、道P連事業の充実と教育課題の解決に努めます。
- 家庭・学校・地域、そして目的を同じくする他の団体及び行政との連携・協働を進め、子どもたちを取り巻く教育・生活環境の改善に努めます。
- ウェルビーイングの実現と持続可能な社会の実現を目指し、私たち自らが意識改革・行動変革に積極的に向き合います。

子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。グローバル化や急速な進化を続ける情報技術や自然環境の変化など、めまぐるしく変わる予測困難な時代の中で、私たち大人は、高度化・複雑化する諸課題へ対応しながら、子どもたちが安心して生活できる環境、子どもたちを安心して育てられる環境づくりのために、責任をもって行動していかなければなりません。

道P連は様々な課題があっても、PTAとしての活動を創意・工夫しながら、ウェルビーイングの実現と持続可能な社会の実現を目指し、様々な事業を進めていきます。

## 2. 基本目標

- (1) 保護者と教師が信頼を深め合い、地域や行政との連携・協力を強化し、生涯学習社会を推進する、開かれたPTAを目指します。
- (2) 家庭・学校・地域・行政が連携を図り、命を大切にし、豊かな人間性とよりよく生きる力を育むPTAの活動を展開します。
- (3) ネット利用も含めた子どもの望ましい生活習慣の定着や自然環境の保護と食育に目を向けた家庭や地域づくりを実践するPTAを目指します。

## 3. 重点目標

- (1) 研修活動の充実
  - ① 生涯学習と結びつけたPTAの研修活動の充実努めます。
  - ② PTA活動を活性化するための委員会活動や広報活動の充実努めます。
  - ③ 北海道ブロック研究大会や地区P連研究大会等、各種研修会の充実努めます。

(2) 教育環境の充実

- ① 会員の要望を把握し、教育行政に反映するなどして望ましい教育環境づくりを進めます。
- ② 児童・生徒の実態の把握に努め、児童・生徒を取り巻く生活環境の浄化に努めます。
- ③ 大人が子どもたちの範となる行動を示し、子どもたちから尊敬される大人となるように努めます。

(3) 青少年の健全育成の推進

- ① 家庭・学校・地域・行政等との連携を強め、家庭及び地域の教育力の向上に努めます。
- ② ネット利用を含めた望ましい生活習慣の定着と食事の大切さを伝える活動を推進します。

(4) 人権・人命尊重と安全教育の推進

- ① いじめ等の問題解決に積極的に取り組み、人権や生命を尊重する心を育てます。
- ② 家庭・学校・地域・行政が連携協力して、安全確保と事故防止の活動に取り組みます。

(5) 委員会活動の活性化

- ① 委員会活動を通し、各地区の交流を図るとともに、今日的課題の解決に向けた先進的な取組を紹介し、単位PTA等の活動の活性化を促すように努めます。
- ② 会報やHPの改良に努め、広報活動の充実を通し、PTA活動の活性化に努めます。

(6) PTA安全互助会の普及

- ① 道P連事業としてのPTA安全互助会の意義の周知に努め加入促進に努めます。

4. 北海道PTA連合会具体的な活動

視点	具体的な内容
自ら学ぶ PTA	①子どもたちを取り巻く実態把握に努め、PTAとしてできることを熟慮し、主体的に研修を深め諸課題の解決が図られるように努力します。 ②大人が子どもたちに範を示すことができるよう大人は自ら研鑽を積み人間的成長が図られるように努めます。 ③家庭・学校・地域・行政の役割と連携のあり方について研修を深め、子どもたちの健全な成長に向けどのように行動すべきか明らかにすることに努めます。 ④広報活動の活性化と効果的な情報の収集・発信を図るための研修を深めます。
自ら行動する PTA	①ネット利用も含めた子どもの望ましい生活習慣の定着のために取組を推進します。 ②家庭・学校・地域・行政・関係機関と連携し、地域ぐるみの子育てを推進します。 ③いじめや不登校等について、積極的な議論に努めます。 ④地域や学校等と連携し子どもたちの安全を確保し事故から守る活動を推進します。 ⑤地域の教育環境の整備や有害情報等の浄化についての活動を推進します。 ⑥地域の学校教育活動への積極的な支援を推進します。 ⑦道内の実態や傾向等を的確に捉え、タイムリーな情報の発信に努めます。

## II 研究推進計画の全体構想（令和7年度）

### 基本目標

1. 保護者と教師が信頼を深め合い、地域や行政との連携・協力を強化し、生涯学習社会を推進する、開かれたPTAを目指します。
2. 家庭・学校・地域・行政が連携を図り、命を大切にし、豊かな人間性とよりよく生きる力を育むPTAの活動を展開します。
3. ネット利用も含めた子どもの望ましい生活習慣の定着や自然環境の保護と食育に目を向けた家庭や地域づくりを実践するPTAを目指します。

### 重点目標

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1. 研修活動の充実     | 2. 教育環境の充実         |
| 3. 青少年の健全育成の推進 | 4. 人権・人命尊重と安全教育の推進 |
| 5. 委員会活動の活性化   | 6. PTA安全互助会の普及     |

### 具体的な活動

#### 〈自ら学ぶPTA〉

- ①子どもたちを取り巻く実態把握に努め、PTAとしてできることを熟慮し、主体的に研修を深め諸課題の解決が図られるように努力します。
- ②大人が子どもたちに範を示すことができるよう大人は自ら研鑽を積み人間的成長が図られるように努めます。
- ③家庭・学校・地域・行政の役割と連携のあり方について研修を深め、子どもたちの健全な成長に向けどのように行動すべきか明らかにすることに努めます。
- ④広報活動の活性化と効果的な情報の収集・発信を図るための研修を深めます。

#### 〈自ら行動するPTA〉

- ①ネット利用も含めた子どもの望ましい生活習慣の定着のために取組を推進します。
- ②家庭・学校・地域・行政・関係機関と連携し、地域ぐるみの子育てを推進します。
- ③いじめや不登校等について、積極的な議論に努めます。
- ④地域や学校等と連携し子どもたちの安全を確保し事故から守る活動を推進します。
- ⑤地域の教育環境の整備や有害情報等の浄化についての活動を推進します。
- ⑥地域の学校教育活動への積極的な支援を推進します。
- ⑦道内の実態や傾向等を的確に捉え、タイムリーな情報の発信に努めます。

### 組織・連携委員会

#### 〈研究テーマ〉

「ともに学び高め合うPTA活動や組織はどうあればよいか」 ～心豊かな共育をめざす組織と活動の推進～

#### 〈研究内容〉

- ◎持続可能で魅力あるPTAの組織や活動についての検討 ・大人も子どもも学びあう ・参加したくなるPTA活動
- ◎学校・家庭・地域の連携や協働体制のあり方についての協議 ・子どもの生活習慣 ・安全安心な地域づくり

### 子育て委員会

#### 〈研究テーマ〉

「豊かな心をもった子どもを育てる親のあり方はどうなのか」 ～誇りをもって子育てし、親自身も喜びを感じながら輝くこと～

#### 〈研究内容〉

- ◎PTA活動の困り感の解消について協議。
- ◎地区研究大会や子育て研の交流や講師選定の情報提供。
- ◎親が輝くために学ぶことの交流。
- ◎身の丈に合った活動の継続から持続可能なPTAを目指す協議。

地区P研究大会・子育て研修会・北海道ブロック研究大会宗谷管内稚内大会・日本PTA研究大会石川大会

### Ⅲ. 委員会の活動

委員会は、北海道PTA連合会の基本方針・基本目標を受けた重点目標にある研修活動の充実を図る上で中心となるものである。組織改編により今年度から2委員会体制で推進にあたった。組織・教育委員会は、組織構築や組織運営について「魅力ある活力に満ちたPTA」を大前提として演繹法的手法に基づいて委員会をすすめた。子育て委員会は親が輝く活動や家庭教育の実践を交流し、それを集積したものを共有し学びあうという帰納法的手法に基づいて委員会をすすめた。

第1回目は、委員会活動の意義や本年度の活動計画、研究の内容・方向性について確認した。第2回目は、研究内容に基づく研究協議、第3回目は、今年度の研究のまとめや次年度の方向性について協議した。各委員会とも推薦を担当する年度の研究大会を見越した取組を行って研究内容と関連付けた活動をすすめた。さらに、各委員会において、第1回目以降、各地区P、市町村P、単Pの活動状況等について、実践交流を図った。今後も各委員会活動の研究の成果と課題を提供・発信していくことが大切と考える。

#### 【令和7年度 委員会構成】

(敬称略)

##### 【組織・教育 委員会】 26名

- 委員長 ⑤清水 武志(副会長:釧路管内)  
副委員長 ①漆 崇博(副会長:石狩管内) ②安達 仁(副会長:留萌管内)  
③秋山 慎一郎(副会長:函館市)  
○内海 洋(副会長:道小校長会~北広島市立大曲小学校長)  
教師代表 ○杉浦 浩(石狩市立石狩中学校長)  
委員 ①栗田 徹(小樽市) ①赤石 哲明(後志) ②松永 裕史(上川北部)  
②菅原 達朗(旭川市) ②中村 亮太(上川南部) ②出村 賢志(稚内市)  
②滝口 智也(宗谷管内) ③三谷 百十樹(渡島) ③日置 勇馬(檜山)  
④谷内 篤史(南空知) ④木村 拓哉(北空知) ④曾賀 玄瑞(胆振東部)  
④幕田 優祐(日高地区) ⑤新輪 誠一(オホ東部地区)  
⑤佐々木 雄一(オホ中部地区) ⑤工藤 基也(オホ西部地区)  
⑤佐藤 真也(帯広市) ⑤高橋 匠(十勝管内)  
⑤吉田 悟志(釧路管内) ⑤五十嵐 一隼(根室地方)

##### 【子育て 委員会】 29名

- 委員長 ④高橋 梨絵(副会長・小樽市)  
副委員長 ②鎌本 かおり(副会長:旭川市) ④南川 達彦(副会長:胆振西部)  
⑤松野 史寛(副会長:釧路市内)  
○岡田 一之(副会長:道中校長会~北広島市立大曲中学校長)  
教師代表 ○増田 昭雄(小樽市張碓小学校長)  
委員 ①齋藤 英枝(石狩管内) ①山田 雅仁(後志) ②佐藤 聡太(上川北部)  
②藤浪 則文(上川南部) ②池野奈穂美(稚内市) ②大塚 真央(宗谷管内)  
②泉 麻美(留萌管内) ③中島 登詩子(函館市) ③河辺 晴奈(渡島)  
③早坂 文香(檜山) ④西尾 正人(南空知) ④川村 丞次(北空知)  
④茂木 翼(胆振東部) ④森 裕之(胆振西部) ④川上 裕美(日高地区)  
⑤目黒 寛樹(オホ東部地区) ⑤和田 潤(オホ中部地区)  
⑤花松 邦恵(オホ西部地区) ⑤福永 裕之(帯広市) ⑤高室 智全(十勝管内)  
⑤山本 美那子(釧路市) ⑤石川 梨香(釧路管内) ⑤本間 玲子(根室地方)

# 1. 組織・教育委員会の取組

## (1) 活動計画

### ①研究テーマ

「ともに学び高め合うPTA活動や組織はどうあればよいか」

～心豊かな共育をめざす組織と活動の推進～

### ②研究テーマ設定の理由

現在、PTAは岐路に立たされている。PTAの必要論やPTAが任意団体によることによる加入の有無、PTA活動に消極的な傾向や負担感など、PTAに対する疑問の声が大きくなっている。それに追い打ちをかけるように日本PTA全国協議会幹部による背任事件等が起き、PTAのあり方が問われている。また、ここ数年PTA活動を自粛せざるを得なかったことで活動そのものが停滞するきっかけにもなった。

一方で、PTAは社会教育法に基づいた社会教育関係団体であり、子どもたちの健やかな成長と教育環境の向上、社会教育及び家庭教育の充実・発展のために活動している団体であり、その存在価値は大きなものがあることは間違いない事実である。

そのような状況下でありながらも、PTAは子どものためにあるという根本を再確認し、子どもとともに親も輝くための活動を地道に行っている単位PTAも少なからずあることは大きな希望である。

子どもと親が、親同士が、親と教職員が、地域との連携を深められるPTAはどうあればよいか、どういう組織を創り上

げ、どのような活動を行えば目的が達せられるのか、さらに持続可能な組織となるためにどういう工夫が必要か、そのことを追究していくことが子どもの笑顔と成長につながると確信することからこの研究テーマを設定した。

### ③研究の視点

この委員会は構成が地区理事、つまり地区P連の会長が構成員であることから、組織構築や組織運営について「魅力ある活力に満ちたPTA」を大前提として、演繹法的手法に基づいて委員会をすすめていく。その際、次のことを視点として議論を展開していく。

○持続可能なPTA組織、PTA活動

○学校・家庭・地域の連携、協働活動

また議論の手助けとして、次のことを話題に取り上げていく。

\*子どもの生活習慣や心を育てる活動

\*子どもが安心してすごせる安全な地域づくり

## (2) 今年度の取組

### ①これまでの成果と具体的な課題

この委員会は昨年まで存在した「組織・連携委員会」と「教育・環境委員会」が統合して今年度より創立した委員会である。そのため、両委員会の成果と課題を記すこととする。(☆は成果、★は課題)

・「組織・連携委員会」☆単Pにアンケートを実施し、活動事例等の情報を共有するとともに、組織の在り方の研究を深化させた。☆各地域の情報を交流し、課題解決を図れた。☆令和8年度推薦提言について協議できた。

★積極的な情報発信と活動の還元。★学校・家庭・地域の協働とPTAの役割についての検討。

・「教育・環境委員会」☆石狩管内・千歳大会での委員会推薦提言。☆各地区の活動の交流。☆各地区の研究大会や研修会の交流。★持続可能なPTA活動に向けてさらに意見を交わし合う必要。

## ②今年度の研究の方向性

研究の視点に基づいて以下の項目について研究を進めるとともに、全道大会への委員会推薦提言についても検討していく。

- 1 令和8年度道南大会推薦提言についての協議
- 2 持続可能で魅力あるPTAの組織や活動についての検討
  - ・大人も子どもも学びあう
  - ・参加したくなるPTA活動
- 3 学校・家庭・地域の連携や協働体制のあり方についての協議
  - ・子どもの生活習慣
  - ・安全安心な地域づくり

## (3) 成果と課題

### ①成果

\*各地区の状況を交流することで、それぞれの地区の課題や悩み、今後の組織のあり方についてお互いに意見を出し合い、今後どのようにPTA活動をすすめていけば会員のためにいいのかを討議できた。また、他地区のすぐれた実践について学び合い、それぞれの地区に環流できた。

\*令和8年度提言推薦に向けて、昨年度実施した単Pむけのアンケートを生かしつつ、委

員が所属する地区P連の状況も踏まえながら、提言にふさわしい実践を洗い出せた。

\*会員が自分事として参加できるように組織の見直しや改編をし、従来のあり方に縛られない単Pを作っていこうとする動きが見られ、会員が負担を感じずに楽しくPTA活動をするためにはどういう工夫が必要か考える機会となった。

\*持続可能なPTA活動というのはどういうものかについて考えるきっかけづくりができた。

### ②課題

\*学校や先生と保護者の交流が少なくなっている現状を打開する取組の必要性。

\*コミュニティ・スクールとPTAとの関わりの成功例の共有。

\*PTA組織のあり方についての検討。

\*地域の人々や地域行事に対するPTAの効果的な関わり方。

\*持続可能なPTA活動についてさらなる討議の必要性。

\*子どももいっしょに楽しめるPTA企画のあり方と共有。

### (4) 次年度の方向性

\*そもそも持続可能で魅力あるPTA組織や活動とは何かを討議する必要性。

\*すぐれたPTA活動や日常実践の集積と共有。

\*コミュニティ・スクールとPTAの効果的な関係性の模索。

\*会員が積極的に参加したくなるPTA活動のあり方。

## 2. 子育て委員会の取組

### (1) 活動計画

#### ①研究テーマ

「豊かな心をもった子どもを育てる親のあり方はどういうものか」

～誇りをもって子育てし、親自身も喜びを感じながら輝くこと～

#### ②研究テーマ設定の理由

本委員会は前身の母親委員会（平成22年度）の発足時より全道統一スローガンとして、「今心輝いて 親として 人として」を掲げてきた。ここでいう「心輝く親（人）」とは、生き生きと輝いて充実した生活を送ることを子育てに反映していくとの思いがこめられている。豊かな心をもった子どもを育てるには、まず親自身が生き生きと日々生活していることを子どもたちに見せていこうという宣言でもある。

このスローガンを実現するために、親自身が学び続けていくことが大切である。親は子どもにとって一番身近で深く関わる存在であり、子どもの行動や意識の形成に最も大きな影響力を及ぼすものであり、その責任は大きく人生の先輩として重要な役割を担っている。その親が輝いている姿を見せることは重要であり、PTA活動がその機会となるよう実践を交流し蓄積して共有できるような委員会にしていく必要がある。

また、「親は人生最初の教師であり、教育の原点は家庭にあり」と言われ、基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、思いやりの心、善悪の判断など、「生きる力」の基礎的な資質や能力は

家庭教育の中で培われることから、家庭教育のあり方についても研究をすすめていく必要がある。これらのことを追究していくことが親や子どもの笑顔と成長につながると確信することからこの研究テーマを設定した。

#### ③研究の視点

この委員会は構成が地区P連の子育て担当や活動をすすめる中心の人であることから、親が輝く活動や家庭教育の実践を交流し、それを集積したものを共有し学び合うという帰納法的な手法に基づいて委員会をすすめていく。その際、次のことを視点として議論を展開していく。

○PTA活動をもとに親が輝く実践

○「生きる力」を育てる家庭教育の実践

また議論の手助けとして、次のことを話題に取り上げていく。

\*親が学んでみたい、輝きたいと思えること

\*家庭・地域・学校が連携した家庭教育のあり方。

### (2) 今年度の取組

#### ①これまでの成果と具体的な課題

(☆は成果、★は課題)

☆委員会推薦提言に向けてアンケートを実施し、それをもとに話し合いができた。

☆各委員からの活動報告による交流で、学びを深められた。

☆それぞれの活動の幅が広げられる協議ができた。

☆PTAの必要性を確認できた。

★コロナ禍以降、活動が後ろ向きになった例も

あった。

★委員の参加を多くする工夫。

★委員会の活動の共有化に向けた環流。

★PTAに対するよくないイメージの払拭。

## ②今年度の研究の方向性

全道大会への委員会推薦提言について支援していくとともに、研究の視点に基づいて以下の項目について研究を進める。さらに、令和9年度全道大会への委員会推薦提言についても検討していく。

- 1 PTA活動への困り感の解消についての協議。
- 2 地区研究大会や子育て研の交流や講師選定の情報提供。
- 3 親が輝くために学ぶことの交流。
- 4 身の丈に合った活動の継続から持続可能なPTAを目指す協議。
- 5 令和9年度道南大会推薦提言についての協議

## (3) 成果と課題

### ①成果

\*各地区P連で前年度行われた研究大会や子育て研修会の内容を交流し、そこからさまざまな話題について討議できた。

\*子どもをとりまくさまざまな課題（発達障害・不登校・放課後の居場所と支援など）について各地区の状況を交流し、問題点などを共有できた。

\*コミュニケーション能力やあいさつの現状について交流し、それをもとに各単P向けにアンケートを実施して、家庭教育やPTA活動でどう生かしていくかという話し合いができた。そこから令和9年度札幌大会に推

薦提言校を検討する足がかりができた。

\*研究大会や子育て研修会のあり方について見直し、大人も子どもも楽しめるようなものにしていく工夫を共有できた。

\*地域と学校、保護者が連携を取ることの意義について確認できた。

### ②課題

\*子どもの数が減りPTA会員も少なくなっている中で、研究大会や子育て研修会を開催することの難しさ。

\*PTAや学校が取り組んでいることを保護者に知らせる手段。

\*子どもと大人が楽しめるようなPTA主催の催しの模索。

\*市単独で地区P連を構成している地区と管内で地区P連を構成している地区の共通の課題と差異。

\*令和9年度札幌大会の推薦提言について見通しを持った取組。

\*今年度実施したアンケート結果の活用と取組。

### (4) 次年度の方向性

\*令和9年度札幌大会での委員会推薦提言への取組。

\*PTA活動への困り感とその解消にむけた協議。

\*地区研究大会や子育て研修会の交流と共有。

\*親が輝くために学ぶことの重要性とその実際。

## IV. 地区研究大会

### 1. 地区PTA研究大会の実施状況と概要

◎地区PTA研究大会実施状況（詳細は北海道PTA連合会のホームページに掲載）

ブロック	No	地区名	開催日	開催地	参加人数	
1	1	石狩管内	11月8日(土)	当別町 当別町とうべつ学園体育館	264	
	2	小樽市	10月23日(木)	小樽市 小樽市民センター マリンホール	294	
	3	後志	9月7日(日)	喜茂別町 喜茂別町農業環境改善センター	203	
2	4	上川北部	8月30日(土)	士別市 士別市市民文化センター	110	
	5	旭川市	11月9日(日)	旭川市 地場産業振興センター・神楽公民館	335	
	6	上川南部	11月8日(金)	占冠村 (紙面交流)		
	7	稚内市	10月4・5日 (土・日)	稚内市総合文化センター 稚内東中 稚内南小	450	
	8	宗谷管内		稚内南中 潮見が丘小 稚内市立稚内		
9	留萌管内	10月21日(火)	留萌市合同庁舎とのハイブリッド形式	193		
3	10	函館市	11月8日(土)	函館市 函館大学	100	
	11	渡島	11月29日(土)	木古内町中央公民館 (オンライン)	227	
	12	檜山	今年実施せず			
4	13	南空知	11月8日(土)	三笠市 三笠市民会館	93	
	14	北空知	11月8日(土)	沼田町 沼田町民会館	175	
	15	胆振東部	今年度は実施せず			
	16	胆振西部	11月11日(火)	登別市 登別市民会館	220	
	17	日高地区	11月8日(土)	えりも町 えりも町立えりも中学校体育館	185	
5	18	オホーツク東地区	11月16日(日)	清里町 清里町生涯学習センタープラネット97	154	
	19	オホーツク中地区	9月23日(火)	北見市 NiCC 芸術文化ホール	279	
	20	オホーツク西地区	9月20日(土)	湧別町文化センターさざ波多目的ホール	88	
	21	帯広市	11月30日(日)	帯広市 とかちプラザ	126	
	22	十勝管内	7月21日(月)	更別村 更別村社会福祉センター	250	
	23	釧路市	10月25日(土)	釧路市 音別町文化会館	130	
	24	釧路管内	11月9日(日)	標茶町 コンベンションホールういず	200	
	25	根室地方	9月23日(火)	中標津町 中標津総合文化会館	180	

◎地区PTA研究大会の概要

NO	地区名	日程	大会スローガン・主題	研究内容	形式
1	石狩管内 11月8日 (土)	午後 半日	□全体主題『子どもたちの未来への夢を育み、新しい時代を切り拓く21世紀のPTA活動はどうあるべきか』 □子育て研修主題『「こどもまんなか社会」の実現をめざす子育ての在り方はどうあるべきか～「子どもたちの健やかな成長」を後押しするには～』	講演会 ・講師 池内 友彦 氏 (元プロサッカー選手、東海大学附属札幌高等学校サッカー部コーチ)  ・演題 「サッカーが教えてくれた“こどもまんなか”の子育て～可能性を信じる力と育む環境」	子育て研修会と同日、同内容
2	小樽市 10月23日 (木)	午後 半日	研究主題(テーマ) 子ども達の健全育成を期して、いじめ・非行・不登校などの防止など、教育環境・社会環境の整備に努め、人権・人命尊重の啓発活動を不断に推進する。	講演会 ・講師 長谷川 正人 氏 (北海道教育大学教職大学院特任教授) ・演題 「家庭・地域・学校との連携」 ～ふるさと小樽のこどもの健やかな成長にむけて～	子育て研修会と別日、別内容
3	後志 9月7日 (日)	午前 半日	主 題 「未来を担う子どもの健全育成を目指して、今、PTAは何をなすべきか」～学校・家庭・地域社会の連携を深め、『生きる力』をどう育むか～	講演会 ・講師 高杉 ゆう子 氏 (公認心理師・スクールカウンセラー) ・演題 「いのちのおはなし」	子育て研修会と同日、別内容
4	上川北部 8月30日 (土)	午前 半日	研究大会テーマ 「一人一人の子どもに、豊かな心と夢や希望を育むPTA活動の実践」～会員相互の研修を深め、学習し、行動するPTA～	講演会 ・講師 中戸川 貢 氏 (一般社団法人ナチュラル&ミネラル食品アドバイザー協会代表理事) ・演題 「現代の食事はミネラル不足(新型栄養失調)」	子育て研修会と同日、同内容
5	旭川市 11月9日 (日)	午後 半日	研究大会テーマ 「～自分らしく生きる事で輝く☆～」	講演会 ・講師 宮澤 ミシェル 氏 (サッカー解説者・元Jリーガー) ・演題 「子どもが輝くための子育て」 分科会 第1分科会 子供の成長サポート 第2分科会 不登校支援 第3分科会 運動×脳トレ 第4分科会 未成年後見制度	子育て研修会と別日、別内容
6	上川南部 11月8日 (金)	紙面	研究主題(テーマ) なし	・単位PTA活動の紙面交流とした。	子育て研修会と別日、別内容
7	稚内市 10月 4・5日 (金・土)	二日 日程	てっぺんから広げよう!子育ての輪と和と話 「未来を担う子どもたちの今とこれからの幸せ(wellbeing)を願い、学び合い、連携し合うPTAをめざして」	講演会 ・講師 宮沢 和史 氏 (シンガーソングライター 俳優 元THE BOOM ボーカル) ・演題 「戦後80年を迎えて～沖縄と北海道から平和を願う」	子育て研修会と同日、同内容  第72回北海道ブロック研究大会
8	宗谷管内 10月 4・5日 (金・土)		分科会 「組織運営」「家庭教育」「学校支援」「地域連携」 「食育・情報」「中学生討論会」「地域課題」		

9	留萌管内 10月21日 (火)	午後 半日	大会主題 「北の大地に根ざした人間性豊かな子どもを育てよう」	講演会 ・講師 田中 賢介 氏 (田中学園理事長) ・演題 「Challenge with dreams - 失敗を恐れずに -」	子育て研 修会と同 日、同内容  オンライ ン開催
10	函館市 11月8日 (土)	午後 半日	研究主題 「みんな一緒に考えよう！ 子 どもがなりたい大人とは」	講演会 ・講師 川合裕紀子 氏 (函館人権擁護委員協議会) 林敏雄 氏 (函館人権擁護連合会) 藤田弘太郎 氏 (函館地方務局) ・演題 「こどもがなりたい大人になるために」	子育て研 修会と別 日、別内容
11	渡島 11月29日 (土)	午前 半日	大会主題 「未来を見つめ、日々変容する 社会に生き、心身ともに健康 な子どもの育成をめざすPTA 活動は、どうあればよいか」	講演会 ・講師 安井 政樹 氏 (札幌国際大学 准教授) ・演題 「これからのAI時代の子育て～道具を自分 のために使える子に～」	子育て研 修会と同 日、同内容  オンライ ン開催
12	檜山	今年度は実施せず			
13	南空知 11月8日 (土)	午前 半日	研究主題 (テーマ) 「ふるさとへの誇りと愛情を持 ち、心豊かに未来を創造する子ど もたちを育む地域社会」	講演会 ・講師 山崎 太地 氏 (有限会社山崎ワイナリー代表取締役) ・演題 「『らしさ』はどこからやってくるのか」	子育て研 修会と同 日、同内容
14	北空知 11月8日 (土)	午前 半日	研究主題 (テーマ) 「会員の研修活動の充実を通し、 お互いに高めあうと共に家庭教 育力の充実を図り、豊かな心をも った子どもの育成に努める」	講演会 ・講師 喜多川 泰 氏 (株式会社L&Rヴィレッジ、作家) ・演題 「一冊の本との出会いで人生は変わる」	子育て研 修会と同 日、別内容
15	胆振東部	今年度は実施せず			
16	胆振西部 11月11日 (火)	午後 半日	研究主題 (テーマ) 未来を担う子どもの豊かな心をは ぐくむ家庭・地域・学校の連携 を目指して	講演会 ・講師 佐藤 麻美 氏 (フリーアナウンサー) ・演題 「夢をかなえるために」	子育て研 修会と同 日、同内容
17	日高地区 11月8日 (土)	午前 半日	研究主題 (テーマ) 「たくましく、心豊かな子どもを 育てるために」 「今輝いて、親として人として」 ～豊かな心をもった子どもを育 てるための親のあり方～	講演会 ・講師 川口 美穂子 氏 (一般社団法人日本パーソナルコミュニケーション協会 認定講師) ・演題 「思春期/反抗期の子育て基本の“キ”」	子育て研 修会と同 日、同内容
18	オホーツク 東部地区 11月16日 (日)	午前 半日	研究主題 (テーマ) 育もう 大きな夢 輝く瞳	講演会 ・講師 コジマジック 氏 (松竹芸能 芸人) ・演題 「笑って学べる収納セミナー」	子育て研 修会と同 日、同内容
19	オホーツク 中部地区 10月5日 (土)	午前 半日	大会主題 「命の大切さを理解し、たくまし く生きる力や豊かな人間性を身 に付けた児童生徒の育成を目指 し、家庭と学校が信頼を深め、地 域との連携を強化した活動を推 進する。」	講演会 ・講師 吉井 雅之 氏 (有限会社シンプルタスク代表取締役) ・演題 「人生は「習慣が10割」～習慣の力で子ど もの力を100%伸ばす～」	子育て研 修会と別 日、別内容

20	オホーツク 西部地区 9月20日 (土)	午前 半日	研究主題 (テーマ) 「オホーツクの大地で育む心豊 かであつた子どもたち」	講演 ・講師 岩井 孝浩 氏 (有限会社イワイ 代表取締役) ・演題 「誰も教えてくれないインターネット・SNS の仕組みと現状」 ～ネットに潜む危険 性と心構え～	子育て研 修会と同 日、同内容
21	帯広市 11月30日 (日)	午後 半日	大会テーマ 「現在 (いま) から 未来 (みらい) へ ～親子で育てる、 希望の種～」	分科会A, B ・講師 千葉 孝司 氏 (ちばトラボ代表) ・演題 「愛と自信をはぐくむ言葉がけ」 ・講師 立花 洋子 氏 下森 初美 氏 (帯広市学校給食センター管理栄養士) ・演題 「給食人気メニュー 肉じゃがづくりに挑戦」 ・講師 松本 早織 氏 (性教育プレゼンター) ・演題 「生まれてきてくれてありがとう ～私が性教育で伝えたいこと～」 ・講師 はせがわ あかね 氏 (片付けクリエイター) ・演題 「生きる力をはぐくむ親子の片付け」 ・講師 森 健太郎 氏 (森鍼灸整骨院) ・演題 「姿勢が及ぼす人体への恐怖～親子 ストレッチで未来の体を見つめ直そう!～」 ・講師 帯広市放課後子ども広場スタッフ ・演題 「キッズものづくり講座」 ・講師 帯広市教育委員会 ・演題 「誰でも気軽に! ～生涯スポーツ推進の取り組み」	子育て研 修会と同 日、同内容
22	十勝管内 7月21日 (月)	午前 半日	大会テーマ 「十勝の教育風土に根ざした、人 間性豊かな子どもを育てるPT A活動を推進しよう」	講演会 ・講師 宮下 晴美 氏 (Office effi オフィス・エフィ代表) ・演題 「子どもの自己肯定感を育むためのエッセンス」	子育て研 修会と同 日、同内容
23	釧路市 10月25日 (土)	午前 半日	大会主題 「21世紀を担う子どもたちを育 てるPTA活動～自立する子を 共に育む家庭と地域の教育力～」	講演会 ・講師 本城 慎之介 氏 (軽井沢風越学園理事長) ・演題 「子ども時代に大切にしたい経験って?」	子育て研 修会と別 日、別内容
24	釧路管内 11月9日 (日)	午前 半日	研究主題 (テーマ) 「たくましく人間性豊かな子ど もを育てるPTA活動のあり方」 ～心豊かな子どもを育てるため に～	講演会 ・講師 山崎 美枝 氏 (釧路短期大学生生活科学科長・教授) ・演題 「心と体を育む “食べる力” ～子どもの未来を支える毎日の食卓～」	子育て研 修会と同 日、同内容
25	根室地方 9月23日 (火)	午前 半日	研究主題 (テーマ) これからの時代を担う たくましく生きる力をもつ子ど もを育てよう～生きる力と豊か な心を育てるPTA活動のあり 方を求めよう～	講演会 ・講師 橋本 達志 氏 (日本医療大学総合福祉学部 ソーシャル ワーク学科 助教) ・演題 子どもにも大人にも大事な「自分自身を大事 にする」考え方と行動	子育て研 修会と同 日、別内容

地区PTA研究大会

講師一覧

(敬称略)

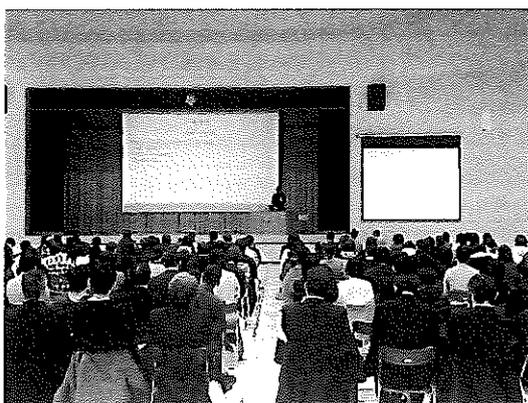
講師名	肩書	演題	開催地区
池内 友彦	元プロサッカー選手、東海大学附属札幌高等学校サッカー部コーチ	サッカーが教えてくれた“こどもまんなか”の子育て～可能性を信じる力と育む環境	石狩管内
長谷川 正人	北海道教育大学 教職大学院 特任教授	「家庭・地域・学校との連携」 ～ふるさと小樽のこどもの健やかな成長にむけて～	小樽市
高杉 ゆう子	公認心理師・スクールカウンセラー	「いのちのおはなし」	後志
中戸川 貢	一般社団法人ナチュラル&ミネラル食品アドバイザー協会代表理事	現代の食事はミネラル不足 (新型栄養失調)	上川北部
宮澤ミシェル	サッカー解説者・元Jリーガー	子どもが輝くための子育て	旭川市
下川原 清貴	北海道キャンプ協会 常任理事	子どもと一緒にキャンプに行こう!	
佐々木 彰	旭川圭泉会病院 精神科診療部長	不登校から、その先へ	
廣嶋 亨	アンドブレインラボ	自分らしく生きる力	
上村修一郎	旭川司法書士会会長	未成年後見人を経験した司法書士の方から学ぶ、子どもの未来を守るために私たちができること	
宮沢 和史	シガーソングライター 俳優 元THE BOOM ボーカル	戦後80年を迎えて～沖縄と北海道から平和を願う	稚内市 宗谷管内
田中 賢介	田中学園理事長	Challenge with dreams - 失敗を恐れずに -	留萌管内
川合 裕紀子 林 敏雄 藤田 弘太郎	函館人権擁護委員協議会 函館人権擁護連合会 函館地方事務局	こどもがなりたい大人になるために	函館市
安井 政樹	札幌国際大学 准教授	これからのAI時代の子育て ～道具を自分のために使える子に～	渡島
山崎 太地	有限会社山崎ワイナリー代表取締役	「らしさ」はどこからやってくるのか	南空知
喜多川 泰	株式会社L&R ヴィレッジ、作家	一冊の本との出会いで人生は変わる	北空知
佐藤 麻美	フリーアナウンサー	夢をかなえるために	胆振西部
川口 美穂子	一般社団法人日本パーソナルコミュニケーション協会認定講師	思春期/反抗期の子育て基本の“キ”	日高地区
コジマジック	松竹芸能 芸人	笑って学べる収納セミナー	オホーツク東部地区
吉井 雅之	有限会社シンプルタスク代表取締役	人生は「習慣が10割」～習慣の力で子どもの力を100%伸ばす～	オホーツク中部地区
岩井 孝浩	有限会社イワイ 代表取締役	「誰も教えてくれないインターネット・SNSの仕組みと現状」～ネットに潜む危険性と心構え～	オホーツク西部地区
千葉 孝司 立花 洋子 下森 初実 松本 早織	ちばTラボ 帯広市学校給食センター管理栄養士 帯広市学校給食センター管理栄養士 性教育プレゼンター	愛と自信を育む言葉かけ 給食人気メニュー 肉じゃがづくりに挑戦 給食人気メニュー 肉じゃがづくりに挑戦 生まれてきてくれてありがとう ～私が性教育で伝えたいこと～	帯広市
はせがわ あかね 森 健太郎	片付けクリエイター 森鍼灸整骨院	生きる力をはぐくむ親子の片付け 姿勢が及ぼす人体への恐怖～親子ストレッチで未来の体を見つめ直そう!～	
スタッフ スタッフ	帯広市放課後子ども広場 帯広市教育委員会	キッズものづくり講座 「誰でも気軽に!～生涯スポーツ推進の取り組み」	
宮下 晴美	Office effi オフィス・エフィ代表	子どもの自己肯定感を育むためのエッセンス	
本城 慎之介	軽井沢風越学園理事長	「子ども時代に大切にしたい経験って?」	釧路市
山崎 美枝	釧路短期大学生活科学科長・教授	心と体を育む“食べる力” ～子どもの未来を支える毎日の食卓～	釧路管内
橋本 達志	日本医療大学総合福祉学部ソーシャルワーク学科 助教	子どもにも大人にも大事な「自分自身を大事にする」考え方と行動	根室地方

## 2. 運営面の「工夫・改善」「成果と課題」

### (1) 工夫・改善

#### <石狩>

- ・参加者、運営者の負担を考慮し、午後日程で実施。
- ・分科会を設定せず、パネルディスカッションを行った。
- ・各校教頭が各部事務局・事務局長をつとめた。



#### <小樽市>

- ・学校毎に座席を指定
- ・会場の椅子の背に学校名を表示(案内の効率化)
- ・学校名を五十音順で5ブロックに分けて受付(案内の効率化)
- ・参加者の氏名確認

#### <後志>

- ・少人数で運営できるよう、運営面の見直しを図った。
- ・準備までの会議等の回数を減らした。
- ・コストカットを意識し、無駄を削減。
- ・運営費用を工面するため、地域の外郭団体等にも協賛を募った。
- ・講演だけではなく、開催地にゆかりのある講師を呼び、ミニコンサートを開催できるように工夫した。

#### <上川北部>

- ・上北Pが集まりやすいよう、距離的に中間地点での開催にした。
- ・紙での案内を送らず、メールで完結するようにした。

#### <旭川市>

- ・研修部が中心となり、他の部からも協力を依頼して、役割分担・タイムテーブル等、当日の動

きを確認した。

- ・開会式は、教育局、市教委、校長会、教頭会から来賓をお招きし、教育局・市教委から挨拶をいただいた。
- ・全体会の座席をブロックで区切り、受付もブロック毎にして、混雑が緩和するように工夫した。

#### <上川南部>

- ・単位PTA活動の紙面交流とした。

#### <稚内市>

- ・開催地までの移動距離があることから、よりコンパクトに、より効率的に運営業務を進めることを目指した。
- ・印刷物を極力減らし、資料についてはデータでの配布を基本とした。
- ・宗谷管内が広く、各PTA連合会・協議会が参集するのは困難であったため、実行委員会の会議を全てzoomで実施した。
- ・宿泊斡旋と大会申し込みの手続きを業者の介入を最低限にし、事務局が作業を担った。

#### <宗谷>

- ・分科会を運営するに当たって、より効率的に計画を進めることを目指し、電話やメールを活用して打ち合わせを行った。
- ・宗谷管内が広く、道P大会実行委員祭への参集が困難であったため、zoomで参加した。
- ・稚内現地実行委員会と協議し、会場準備や駐車場の係を一部稚内P連に委ねた。

#### <留萌>

- ・参加しやすいよう集会とオンラインのハイブリッド形式
- ・ワークライフバランスの観点から休日開催から平日開催へ
- ・事務局業務軽減のため、留萌教育局と連携した運営(会場設営やオンライン運営など)
- ・留萌市のLINEやSNS等活用した幅広い周知活動

#### <函館市>

- ・研修委員会事務局校を中心に準備を進め、市P連副会長には副大会長として、会場の設営や開会式の運営をお願いした。後半のグループ意見交流でも5つのそれぞれの会場で、運営者として副会長と研修委員会が、一緒に主催者挨拶・司会・記録など役割分担をし、会場ごとに終了

したことでスムーズな解散につながった。

#### <渡島>

- ・参加者が参加しやすいよう、木古内町中央公民館からオンラインで配信し、各学校で視聴する形式をとった。
- ・開催要項や資料等をデータで配信することで、低予算で実施することができた。

#### <檜山>今年度開催なし

#### <南空知>

- ・土曜日の午前半日開催という形をとることで、参加者の週末の自由に使える時間を確保した。
- ・参加申し込みおよび事後アンケートについては、Google フォームを活用し、各市町 PTA 事務局の集計作業を無くし、全体の集計作業等の効率化を図った。
- ・当日の配布物をできる限り少なくし、封筒の印刷や封筒詰め作業を無くすことで、役員の負担の軽減を図った。

#### <北空知>

- ・会場の収容人数の大きさから、特に人数制限を設けずに実施した。
- ・保護者の方の参加しやすい大会とするため、早くから講師（作家）について保護者に周知し、作品の紹介を勧め、当日は講演後にサイン会を設けた。

#### <胆振東部>今年度開催なし

#### <胆振西部>

- ・教育的に意味がある講話が可能で、かつ知名度の面から多くの関心を集められる講師としてフリーアナウンサーの佐藤麻美氏を選定し、早めに講師を決定することができた（R73月）。



#### <日高>

- ・各学校に役割を割り振り、連絡や調整を主にメールで行ったことで、実行委員会としての会議

開催を省略するなど、打ち合わせ回数を大幅に削減することができた。

- ・参加者の取りまとめについては、町Pでの集約を廃止し、地区P担当へ一本化したことで、各町の事務負担を軽減することができた。

#### <オホーツク東部>

- ・子育て研と同日同内容とし、PTA会員に第一次産業従事者が多いので、仕事がひと段落する時期を選んで実施した。
- ・YouTube 等で名前の知られた講師と内容にすることにより、教職員以外のPTA会員が参加してみたいという講演にした。
- ・開催町の研修とも兼ねることで予算面にゆとりを持たせることができた。

#### <オホーツク中部>

- ・各校に期待数を通知した。
- ・開会式の中でオホーツク教育局からの情報提供の時間を設け、講演の時間確保を行った。
- ・当日運営マニュアルを整備し、事前に実行委員の当日の動きを目に見える形にまとめた。当日はそのマニュアルをもとにして、それぞれの役割でスムーズに運営することができた。
- ・参加者アンケート等を、Google Form を使用して行った。

#### <オホーツク西部>

- ・昨年度より、研究大会と子育て研修会を併催とした。
- ・参加申込みと事後アンケートはQRコードを配布し、Google フォームで一括集約を行った。また、当日資料もペーパーレス化により、電子資料としてQRコードを使用し、個人端末から読み取れるようにした。

#### <帯広市>

- ・「フェス」形式として、誰でも気軽に楽しみながら参加できる大会を目指した。
- ・「開会式、閉会式を行わない」「来賓を招待しない」などにより、各分科会の時間の充実に重きをおいた運営を実施。
- ・「親向けの分科会」「親子で参加できる分科会」「子どものみで参加できる分科会」を用意し、子どもと一緒に参加しやすい体制を作った。

#### <十勝>

- ・第一次案内を5月8日の十勝管内PTA連合会総会にて管内の全町村のPTA連合会を通して

各単位PTAに配布。また、第二次案内を6月18日に各町村PTA連合会にメールにて送付し、各単位PTA事務局へ参加要請を行う。

- ・令和5年度・令和6年度のアンケート反省から、参集型で講演会を行った。

#### <釧路市>

- ・本年度の開催地は遠隔地で小規模校のため、実行委員会の開催が困難であり、関係校との連携が不足した。

#### <釧路管内>

- ・持続可能なPTA活動を念頭に、なるべく簡略化した。～・大会要項にQRコードを多用し、枚数を大幅に削減・基本的に単Pのみで当日までの準備を行い、実行委員会議を削減・開会の言葉、閉会の言葉も司会が兼務

#### <根室>

- ・参加申し込みについてはQRコードを用いて直接入力方式にした。
- ・根室地方PTA研修大会と根室地区子育てを同日開催とし、午前中にすべて終了するようにした。
- ・開会式については、登壇者を絞り挨拶も少なくして従来より時間短縮を図った。

## (2) 成果と課題

#### <石狩>

- ・とうべつ学園を会場にしたことにより、300名を収容できた。
- ・実行委員会を計画的に推進することができた。
- ・6名の教頭で仕事を分担したことが負担軽減につながった。
- ・事務局が進める部分と子育て委員が進める部分を明確化できた。

#### <小樽市>

- ・保護者の関心が高いテーマで講演を開催できた。
- ・受付時の混雑を回避するため、市P連役員が機動的に対応したことで効率的に案内することができた。

#### <後志>

- ・これまでの運営よりも業務のスリム化を図ることができた。
- ・運営費用を増額し、名のある講師を招聘し、大

会を盛況で終わることができた。

- ・講師招聘にあたりかなりの費用を必要としたため、運営費用はギリギリの運用だった。費用面を考慮すると講演は1本で良い。
- ・単独町村(特に小規模の町村)での運営担当は、会員減少によるPTA組織の衰退もあり、限界を迎えている。運営方法の見直しが必要。

#### <上川北部>

- ・距離的に集まりやすい会場にしたことで、参加率が高かった。
- ・参加集約も含めて全てデータでの対応にしたので、事務作業が軽減できた。

#### <旭川市>

- ・当日までの打合せをGoogleフォームで管理することにより、全員が流れを把握し円滑な運営ができた。また、参加者の移動もスムーズに行われていた。
- ・各部の協力を得て研修部が中心となり運営に当たり、市P連として一体感をもって取り組み、特に問題なく予定通り実施できた。
- ・講師を招聘するための費用の確保や会場経費について、今後も検討を要する。

#### <上川南部>

- ・作成については、クラウド上での作業にしたため、担当市町村の負担が減った。配付の方法についても、各市町村の現状に合わせることできて、各単Pの負担が減らすことができた。

#### <稚内市>

- ・印刷物を減らしたことで、印刷・郵送費を大幅に削減することができた。
- ・実行委員会の会議を全てzoomでの開催とし、データのやりとりをGoogleクラスルームとメール、ギガファイル便で行ったため、旅費の縮減と締め切りに余裕を持たせるなどの業務負担の軽減につながった。
- ・宿泊と大会申し込みの手続きについては、事務局の業務としては負担が大きかったため、可能であれば業者に発注した方が良い。

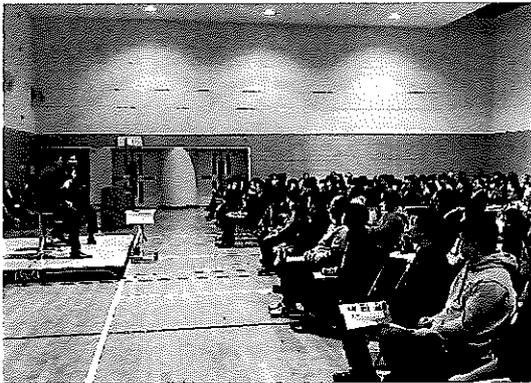
#### <宗谷>

- ・実行委員会の会議を全てzoomでの開催とし、データのやりとりをGoogleクラスルームとメール、ギガファイル便で行ったため、旅費の縮減と締め切りに余裕を持たせるなどの業務負担の軽減につながった。

・宗谷管内P連を一度通って各町村P連に周知や連絡を行うことは、タイムロスと煩雑さがあった。

#### <留萌>

- ・講師が、元日本ハムファイターズの田中賢介氏であったこともあり多くの参加者を集めることができた。
- ・平日夜の開催にしたが、野球をやっている子どもの参加などを考えると、休日開催を求める声もあった。
- ・オンライン運営については、専門的な技術や知識が必要であり、留萌教育局に負担を与えてしまった。



#### <函館市>

- ・研修委員会事務局校と連絡を取りながらスムーズに進められた。
- ・今年度も事前に役員会で確認したため、役員が中心となった運営ができた。積極的にPの参加を呼び掛けたが、やはりTの参加者の方が多く、意見交流のためのグループ分けを、できるだけPとTの割合が同じになるよう調整するのが大変だった。

#### <渡島>

【成果】・少人数体制で準備・運営し、低予算で実施することができた。

【課題】・各地域のPTAが交流できるよう、グループ協議の機会を設定するなど、研修会の形式を工夫・改善する必要がある。

#### <檜山>今年度開催なし

#### <南空知>

- ・最初に予定し依頼をしていた講師からの明確な回答がなかなか得られず、結局キャンセルという形になったため、準備のスケジュールがかなり遅れてしまった。講師は遅くとも7月上旬ま

では決定したい。

- ・Google フォームを使って申し込みと感想を集約したため、作業の負担は少なかったと考える。

<北空知>・開催地である沼田町PTA連合会と連携することにより、会場づくり等をスムーズに運営することができた。

<胆振東部>今年度開催なし

<胆振西部>

- ・知名度のある講師にもかかわらず、平日夜の開催ということもあってか期待数ほどに申込が伸びなかった。

<日高>

- ・成果～担当校が主体的に準備や運営に取り組んだことで、全体として円滑に実施することができた。
- ・課題～名簿上は期待数を超える申し込みがあったものの、実際の参加者数は期待数を下回った。えりも町が日高管内の端に位置していることも要因として考えられ、今後の開催地の在り方について検討する必要がある。
- ・課題～えりも町には託児を委託できる民間施設がないため、今回は小学生を対象を限定して託児対応を行った。その結果、参加を見送らざるを得なかった家庭があった可能性も考えられる。

<オホーツク東部>

- ・教職員以外のPTA会員の申込率が全体の70%を超えた。
- ・町の研修と兼ねることで予算面にゆとりが生まれ、魅力的な講師を招聘することができた。
- ・11月中旬で実施することにより、遠方の方や忙しい方でも参加しやすい環境を整えることができた。

<オホーツク中部>

- ・参加者については「参加期待数」を各校に割り振った。近年PTAボランティア制を行っている学校が多く、各校の参加者が期待数を下回るケースが多い。参加者は予定の70%であった。今後の参加者確保の方法について検討の必要がある。
- ・今回は講演会を90分とし、休憩を設けなかった分、講演に集中できた。
- ・講師選びに時間がかかった。予算やテーマ、日程に合う講師を選ぶのは、伝手がないとなかなか難しい。

<オホーツク西部>

- ・Google フォームやQR コードを活用した一括申し込みや電子資料配布を行ったことで、事務局による参加者の把握と印刷作業が軽減された。
- ・事務局で参加者状況を一括管理すると、各市町村 PTA 事務局が参加状況の詳細を把握できないため、連絡を密にとることが大切。

<帯広市>

- ・子育て教育部を中心に、部員・役員の方々が主体的かつ機能的に動き、スムーズな大会運営ができた。
- ・インフルエンザ流行の影響があり、当日キャンセルされた方が多く、大人 107 名、子供 19 名と、昨年度と比較すると参加が少なかった。次年度は開催時期の検討が必要である。
- ・大会会場の駐車場に限りがあり、周辺に無料駐車場がないため、参加者に不便がかかる。駐車場を含めた開催場所については要検討。



<十勝>

- ・例年同様に「海の日」を開催日とした。開催後のアンケート集約をみても、概ね肯定的な評価となっている。
- ・今後も、会場校の実態に合わせ可能な限り開催町村の特色を発揮できる大会の開催・運営を望む。

<釧路市>

- ・研修会の終了後の反省会は、リモート会議により意見交換した。事前の実行委員会の必要性や今後の研究大会の在り方についても見直す必要性について意見交換した。

<釧路管内>

(成果)・以前よりコンパクトな大会を実現できた。

- ・外注をほとんどしなかったため、費用も削減できた。

(課題)・事務局(教頭)の負担が大きかった。

<根室>

【成果】・5つの分科会を設定し希望を取り、その

人数で分科会会場を決定することによって、参加者のニーズに対応することができた。

【課題】

- ・QRコードによる申し込みにしたが、申し込み状況が事務局で一括集約となるので、各校が申し込み状況を把握することが困難であることから、申し込み状況を随時伝えることが手間として増えた。
- ・会場使用料がかかる地区については、学校を利用するなどの工夫によって、経費の削減ができるのではないかと。

### 3. 内容面の「工夫・改善」「成果と課題」

#### (1) 工夫・改善

##### <石狩>

- ・パネリストは、開催町村である当別町と新篠津村から人選を行った。子どもの教育に携わる関係機関から選出し、実感を伴う内容とした。

##### <小樽市>

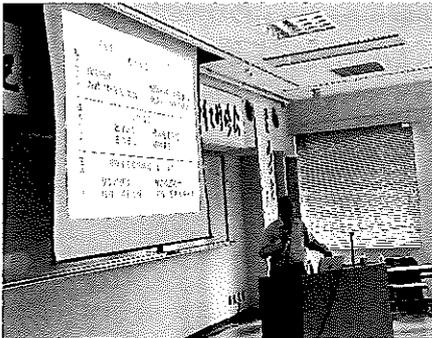
- ・保護者の関心が高いテーマとなった。内容がとてもわかりやすく、最後に質問や感想で交流を図ることもできた。
- ・今後も保護者の関心の高いテーマを考え、講師の選定を行っていききたい。また、より多くの保護者に参加してもらえるように努める。

##### <後志>

- ・「いのち」の尊さについて、理解しやすい講演内容となるよう講師に依頼した。
- ・子育て研修会の講演につながりを持つような講演となるようにした。
- ・スライドを使い、視覚的にも情報が入るように工夫した。

##### <上川北部>

- ・特に工夫はないですが、参加者集約をスプレッドシートで行えばよかった。



##### <旭川市>

- ・本年度のテーマは、研修部会内で、「自分らしく生きることで輝く☆」と設定して、全体講演の内容等と関連させた。
- ・全体講演、各部会ともに、子どもや教育・社会に関わる現状や課題、さらにグローバルな内容等に配慮して幅広く講師を選定し設定した。また、グーグルフォームでもアンケートを活用し、参加者の要望などの声をきくことができた。

##### <上川南部>

- ・8月の子育て研修会の内容も含め、各単Pが、テーマに沿った内容で活動をまとめ、紙面で交流した。

##### <稚内市>

- ・特1分科会では、稚内市内各校の生徒会を集め、保護者と中学生が語り合う討論会を設定した。
- ・情報交換会だけでなく、分科会参加者にもお土産を用意した。

##### <宗谷>

- ・分科会で発表を担当するP連が、安心して情報発信ができるよう、打ち合わせや準備を行うよう心がけた。

##### <留萌>

- ・留萌教育局と連携した「望ましい子どもの生活習慣・学習習慣定着」に関する情報提供。
- ・参加者が興味関心を持てるような内容にするための、担当者との綿密な打合せ。
- ・参加者の関心を高めるために、教育局による情報提供を講演の前に、行ったほうがよかった。

##### <函館市>

- ・子どもがなりたい大人について考えるため、人権感覚をもった大人について講演をしてもらった。無意識に持つ偏見をセルフチェックする時間もあったので自分自身を振り返ることができた。
- ・講演後は5つの会場に分かれ、更に6~7人の小グループ数個を作り、講演の感想やテーマにそって意見交流をしてもらった。どのグループも活発な話し合いを持つことができた。

##### <渡島>

- ・講演は、AI技術の急速な発展は子どもたちの学びや生活の在り方に大きな影響を与えている昨今の状況を踏まえた適切な内容だった。
- ・開会式・閉会式を簡略化することで、研修に重点をおいた時間配分とした。

##### <檜山>今年度開催なし

##### <南空知>

- ・山崎氏のワイナリー経営やこれまでの経験の中から、「自分らしさ」や地域ごとの「らしさ」など、様々な視点から「らしさ」という点について講演をしていただいた。個性を大切に、「らしさ」を強みとして生きる個人や社会を育むことの必要性について学習する場となった。

・「時間が短かった」「もう少し話が聞きたい」などの感想もあり、講演時間を確保するための工夫が必要。

#### <北空知>

・担当地区となった沼田町の課題が、「読書活動」の推進となっていることから、全国的なベストセラー作家を講師として招き、読書の大切さについて、お話いただくことができた。

#### <胆振東部>今年度開催なし

#### <胆振西部>

・講師の佐藤氏が、観客に参加を促す場面などを設けながら楽しい雰囲気になるよう工夫してくださり、発音や抑揚がさすがプロという聞きやすいものであることも相まって流石と感じさせる90分間であった。

#### <日高>

・保護者の関心に即した内容についてお話しただけの講師を選任した。



#### <オホーツク東部>

・1時間30分という限られた時間内で、オホーツク教育局社会教育指導班による学習会（子どもたちの望ましい生活習慣・学習習慣の定着～時間の目安を決めて生活リズムを整える～）と、コジマジック氏の講演を行った。

・短時間ではあるが魅力的な講師を招聘し、笑い楽しみながら子育てに有益な情報を学べ、充実した会となった。

#### <オホーツク中部>

・例年より講演時間を短縮し、休憩をはさまずに行ったことにより、講師の熱意が伝わり集中して聴くことができた。

・子育てや親子関係だけでなく、保護者自身の生き方をも見つめ直す機会となる講演内容となった。

#### <オホーツク西部>

・講師による最新の事例紹介と専門的知見をもとに、家庭・学校・地域の大人が共に考える構成とした。特に、SNS 利用に潜む危険性や被害防止の具体的手立てをわかりやすく示し、参加者が自らの家庭や教育現場で生かせるよう工夫した。また、講演内容を手軽に確認できるよう、個人端末で閲覧できる形式とし、理解を深める環境を整えた。

#### <帯広市>

・帯広市の学校給食の人気メニューである「肉じゃが」づくりを分科会で行った。

・“親だけ”でも“子どもと一緒に”でも参加のできる「生涯スポーツ（モルック）」や、“親だけ”、“子どもと一緒に”、“子どもだけ”のどれでも参加OKな「片づけ講座」「親子ストレッチ」「キッズものづくり講座」を分科会で行い、家庭の状況に応じた参加のしやすさを生んだ。

#### <十勝>

・例年暑い時期に行っているため、空調のきいた会場であることが必須である。

・農家の方の繁忙期と重なるため日程の検討をしてもよい（今年度は高温が続き小麦の収穫が早まった様子）。

#### <釧路市>

・講師は、地元にゆかりがある方を優先して選定し依頼した。

#### <釧路管内>

・持続可能なPTA活動を念頭に、なるべく簡略化した。～・子育て研を同日、同内容で実施・講演内容をこれまでの子育て研を意識し食育で講師選定

#### <根室>

・今日的な課題をテーマとし参加者が考える場面を設定したことで、時間が短く感じるほど、会場全体が集中して考え話し合うことができた。

## (2) 成果と課題

#### <石狩>

・いじめや不登校が社会的な問題となっている中で、有意義な情報を参加者に提供することができた。

・終えてみると、改めて、保護者と教員、地域の

ビジョンを共有し、それをもとにした研修会とすべきだと感じた。担当が単年度なので、この感覚の継続は難しいと考える。

#### <小樽市>

- ・小樽の昔話や具体的な事例がわかりやすかった。また、講演最後には「本日の講演内容を踏まえ、子供への声掛けを考えていきたい」等、子供との接し方に係る感想があった。
- ・いじめが起きた際の保護者からの要望、それに対応する学校の例を示し、子供が前向きに成長していくためにはどのような対応が必要なのか等、事例を通して深く考えることができた講演会であった。

#### <後志>

- ・参集者から「大変わかりやすい講演だった」と大変好評だった。
- ・講師が次の子育て研修会のために、会場に残ってくださるなど、相互に繋がりを深めた有意義な講演となった。
- ・子育て研修会とあわせて、2本、2時間30分の講演は長く感じた。次年度からは1本の講演でどうか。

#### <上川北部>

- ・非常に興味深い内容で、参加者の方々からはかなり好評であった。
- ・保護者の方にとって身近な話題である「食」の内容であったのも良かった。

#### <旭川市>

- ・全体講演、4分科会を設定し、全体テーマや分科会テーマに沿って、教職員、保護者、教育関係者が一同に会し、子育て等の研修を深めることができた。参加者からも肯定的な評価を多くいただいた。
- ・今後も、子どもや家庭・社会を取り巻く今日的課題など、会員のニーズに応じた内容となるよう検討していきたい。

#### <上川南部>

- ・コロナ禍が明け、縮減された活動が継続されたり、取組方法を変えたりしながら取り組まれていることが交流できた。

#### <稚内市>

- ・特1分科会では、中学生が実際に感じていることを話し、保護者とのグループ協議の時間を設

定することで、それぞれの思いや感覚を共有することができた。

- ・記念講演の内容は良かったが、子育てに関する要素が少なかったため、PTAの大会である以上、もっと子育てやPTA活動に関連するような内容を盛り込むべきだった。

#### <宗谷>

- ・分科会当日だけではなく、打ち合わせや情報交換会の中でも他地域のP連の活動やご苦勞をお聞きすることができ、勉強になった。
- ・分科会ごとに準備や打ち合わせの仕方が任されていたため、ばらつきがあった。基本の形や最低限のルールが示されていると運営しやすかったし、研究発表するP連も安心だったと思われる。

#### <留萌>

- ・多くの参加者から、「来てよかった」「生で聞くのは説得力が違う」など、久しぶりに集会形式で開催したことに前向きな意見が多かった。
- ・多くの参加者を集めるために、ネームバリューのある講師を呼ぶ謝礼など予算の問題。
- ・教育局と連携したことにより、講演だけでなく子育てに関する話題も提供でき、より内容が充実した。

#### <函館市>

- ・あまり長時間とならないよう、講演・グループの意見交流ともに1時間程度とした。グループの意見交流は今回も好評だった。
- ・会場の広さと小グループの数などのバランスを考えて、今回は5つの会場とした。準備から開催、後片付けまでの時間を工夫し、施設使用料の節約に努めることができた。

#### <渡島>

**【成果】**・学校教育や家庭において、AIをどのように使えば学びを深められるのかを考える機会となった。子ども自身がAIを「自分のための道具」として主体的に使いこなす力を身に付けることができるよう、家庭でもしっかりと話し合い、見守る必要があることを学ぶことができた。

**【課題】**・講演後、会場毎に協議した内容をオンライン上で共有すると、より充実した研修になったと思われる。

<檜山>今年度開催なし

<南空知>

- ・参加者の感想のうち、約70%が「大変良かった」約30%が「良かった」と回答していただいた。
- ・Zoomなどを活用して、リモート参加のできる体制を整えることができなかつたが、リモート参加のできる形であれば、もっと多くの方々に講演を聞いてもらえたと思われる。

<北空知>

- ・子どもたちだけではなく、大人（保護者、教職員等）が積極的に読書に親しむべきだという思いに触れることができた。
- ・本大会及び研修会をとおして、家庭教育力の充実を図るきっかけとなった。

<胆振東部>今年度開催なし。

<胆振西部>

- ・佐藤氏が「アナウンサーになる」という夢をどのようにしてかなえたのかという実体験に基づいた話をわかりやすくしてくださり、多くの観客に伝わる内容だった。

<日高>

- ・成果～アンケート結果から、今回の講演内容に対して多くの参加者が肯定的な評価を示していることが確認できた。

<オホーツク東部>

- ・暮らしに役立つ片づけのコツや収納の基本を、笑いとおもしろいお届けするセミナーであった。片づけや収納に興味のなかつた人も「いっぱい笑えて楽しみながら学べた」と多くの感想をいただき、年齢層を問わず満足度が非常に高いことが感想から読み取れた。
- ・地域小学校によって、PTA会員への呼びかけや取り組み方が異なり参加数にかなりの差が見られた。これからも限られた予算の中でいかに動員ではなく自ら行きたいと思える内容にするかが大きな課題と言える。

<オホーツク中部>

- ・事後アンケートでは「子育てについてだけでなく、今後の自分の在り方についても考えるいいきっかけになった」「親として気が付かされる事が沢山あり、とても有意義な時間を過ごせた」「人としてのあり方を見せることが子どもを育てるという主張に共感した」等の感想が多数あ

り、家庭における教育力の向上につながった。オホーツク中部PTA連合会の会員が一同に会し、子育てでなく自らの生き方をも考える、大変実りある時間を過ごすことができた。

<オホーツク西部>

- ・子どもを取り巻く情報環境への理解が深まり、保護者や教職員の危機意識を高めることができた点は大きな成果である。一方で、講演を一過性の学びで終わらせず、家庭や学校での継続的な情報モラル教育や保護者への周知をどのように実践していくかが今後の課題である。また、地域ぐるみでの見守り体制づくりも求められる。

<帯広市>

- ・親子一緒に分科会、子供だけが参加の分科会とも大変好評であった。
- ・アンケートでは、参加された方の満足度が非常に高く、学びの質は十分評価されているため、次年度は広報活動の強化により、更に参加しやすい環境整備に努める。

<十勝>

- ・大会テーマのもと、「自己肯定感を育む」ことについて焦点を当て、講師の選定を行った。講演に参加したPTA会員からのアンケートからとても好評であった。

<釧路市>

- ・講師依頼、来賓依頼、原稿依頼、講師依頼などは大変でした。
- ・経費節減のため、大会集録は省略した。

<釧路管内>

- (成果)・講演内容は、家庭ですぐに取り組みることが多く、事後評価も良好であった。
- (課題)・食の話で90分は長いとの声もあった。
- ・講師から資料の完成がぎりぎりになるとのことで、今回資料データをもらうことができなかったが、データが欲しいとの声が多数あった。

<根室>

- ・終了後、管内複数校から講師への授業リクエストがあり、年度内実施の運びとなった。
- ・分科会の具体的な内容を事前に周知するのが難しい。1次案内や2次案内にある程度詳しい内容を掲載する必要がある。
- ・参加者数が減少傾向にあるため、分科会の開設数を4つにしてもいいのではないだろうか。

## V. 地区子育て研修会

### 1. 地区子育て委員会の実施状況と概要

◎地区子育て研修会の実施状況（詳細は北海道PTA連合会のホームページに掲載）

（＊地区研究大会と同日同内容の地区は地区研究大会のページをご覧ください。）

プロ ック	No	地区名	開 催 日	開 催 地	参加 人数	
1	1	石狩管内	研究大会と同日・同内容			
	2	小樽市	9月6日(土)	小樽市 いなきたコミュニティセンター	88	
	3	後志	9月7日(日)	喜茂別町 喜茂別町農業環境改善センター	203	
2	4	上川北部	研究大会と同日・同内容			
	5	旭川市	9月7日(日)	旭川市 神楽公民館	79	
	6	上川南部	8月23日(土)	占冠村 (オンデマンド)	385	
	7	稚内市	研究大会と同日・同内容			
	8	宗谷管内	研究大会と同日・同内容			
	9	留萌管内	研究大会と同日・同内容			
3	10	函館市	10月8日(水)	函館市 渡島合同庁舎講堂	45	
	11	渡島	研究大会と同日・同内容			
	12	檜山	研究大会と同様の扱い			
4	13	南空知	研究大会と同日・同内容			
	14	北空知	11月8日(土)	沼田町 沼田町民会館	175	
	15	胆振東部	2月14日(土)	苫小牧市 苫小牧市立緑小学校	103	
	16	胆振西部	研究大会と同日・同内容			
	17	日高地区	研究大会と同日・同内容			
5	18	林ノッ東部地区	研究大会と同日・同内容			
	19	林ノッ中部地区	11月22日(土)	置戸町 置戸町中央公民館	124	
	20	林ノッ西部地区	研究大会と同日・同内容			
	21	帯広市	研究大会と同日・同内容			
	22	十勝管内	研究大会と同日・同内容			
	23	釧路市	9月10日(水)	釧路市 中部コミュニケーションコアかがやき	31	
	24	釧路管内	研究大会と同日・同内容			
	25	根室地方	9月23日(火)	中標津町 中標津町総合文化会館	180	

◎ 地区子育て研修会の概要

地区名	日程	大会スローガン・主題	形式	研究内容
1	石狩管内	研究大会と同日・同内容		
2	小樽市 9月6日(土)	午前 半日	子ども達の健全育成を期して、いじめ・非行・不登校などの防止など、教育環境・社会環境の整備に努め、人権・人命尊重の啓発活動を不断に推進する。	講演会 講師 坂井 翔一 氏 (札幌市自閉症・発達障がい支援センター センター長) 演題 親(大人)の困りは子どもの困り。子どもが親(大人)に求めていること
3	後志 9月7日(日)	午前 半日	豊かな心をもった子どもを育てる親のあり方 ～今こころ輝いて 親として人として～	お話とミニコンサート 講師 半澤 美子 氏 (シンガーソングライター) 演題 思いよとどけ ～母から子へ～
4	上川北部	研究大会と同日・同内容		
5	旭川市 9月7日(日)	午後 半日	今 こころ輝いて 親として 人として Power of smile ～幸せのエネルギー～	全体会 分科会 全体会 smile ウォーミングアップ 第1分科会 パーソナルカラー 第2分科会 体が喜ぶストレッチ 第3分科会 分子栄養学 第4分科会 ボールペン字・毛筆
6	上川南部 8月23日(土)	午前 半日	設定していない	講演会 ○オンデマンド開催 講師 木下 一雄 氏 (旭川市立大学保健福祉学部教授) 演題 いつでもネットがあるのが当たり前の子どもたち
7	稚内市	研究大会と同日・同内容		
8	宗谷管内	研究大会と同日・同内容		
9	留萌管内	研究大会と同日・同内容		
10	函館市 10月8日(水)	午前 半日	「今 伝えたいこと」 子育てをされていて、いろいろな気になることや考えるべきことについて	情報提供 子育て委員の発表 グループの話し合い 情報提供 渡島教育局吉田社会教育主事 道教委の取組について 子育て委員の発表 性教育 食育 不登校 親子関係 ネット問題 感情と向き合う
11	渡島	研究大会と同日・同内容		
12	檜山	研究大会と同様の扱い		
13	南空知	研究大会と同日・同内容		
14	北空知 11月8日(土)	午前 半日	会員の研修活動の充実を通し、お互いに高め合うと共に家庭教育力の充実を図り、豊かな心をもった子どもの育成に努める。	講演会 講師 斉藤 萌 氏 (北海道教育庁空知教育局) 演題 子どもの望ましい生活習慣とデジタル技術とのよりよい付き合い方

15	胆振東部 2月14日(土)	午前 半日	子どもに自己肯定感を育む 大人の関わり方	講演会	講師 折茂 武彦 氏 (レバンガ北海道代表取締役社長) 演題 子どもに自己肯定感を育む大人の 関わり方
16	胆振西部	研究大会と同日・同内容			
17	日高地区	研究大会と同日・同内容			
18	オホーツク 東部地区	研究大会と同日・同内容			
19	オホーツク 中部地区 9月22日(土)	午前 半日	今 こころ輝いて 親として 人として	講演会	講師 村中 直人 氏 (Neurodiversity at Work 株式会社 代表取締役) 演題 <しかる依存>の理解と対応
20	オホーツク 西部地区	研究大会と同日・同内容			
21	帯広市	研究大会と同日・同内容			
22	十勝管内	研究大会と同日・同内容			
23	釧路市 9月10日(水)	午後 半日	家庭の食卓がつくる健やか な成長～親としてできる栄 養サポート	講演会	講師 山崎 美枝 氏 (釧路短期大学生生活科学科長) 演題 家庭の食卓がつくる健やかな成長 ～親としてできる栄養サポート
24	釧路管内	研究大会と同日・同内容			
25	根室地方 9月23日(火)	午前 半日	これからの時代を担う たくましく生きる力をもつ 子どもを育てよう ～生きる力と豊かな心を育 てるPTA活動のあり方を 求めよう～	分科会	【第1分科会】 「家庭における学習習慣について」 講師 米谷 広美 氏 (根室教育局学校教育指導班主査) 【第2分科会】 「家庭における生活習慣について」 講師 村上 真琴 氏 (根室教育局社会教育指導班主査) 【第3分科会】 「AIの進化と多文化共生社会の実現」 講師 五十嵐一成 氏(岩谷学園ひがし 北海道 IT 専門学校 科長) 講師 飯田 雄士 氏(岩谷学園ひがし 北海道日本語学校 校長) 【第4分科会】 「部活動の地域移行について」 講師 斉藤 誠 氏 (根室教育局教育支援課長) 【第5分科会】 「SDGs 寄り道ステーション」 講師 成田 悠希 氏 (ネイパル厚岸 社会教育主事) 講師 大槻奈緒子 氏 (ネイパル厚岸 事業係長)

## 地区子育て研修会 講師一覧

(敬称略)

講師名	肩書	演題	開催地区
研究大会と同じ講師			石狩管内
坂井 翔一	札幌市自閉症・発達障がい支援センター センター長	親(大人)の困りは子どもの困り。子どもが親(大人)に求めていること	小樽市
半澤 美子	シンガーソングライター	思いよとどけ ～母から子へ～	後志
研究大会と同じ講師			上川北部
景山 研斗	ヴォレアス北海道スポーツトレーナー	smileウォーミングアップ・ストレッチ	旭川市
丸山ゆうこ	札幌エムズスタイル代表	パーソナルカラーを知ろう	
中村まりこ	分子栄養学アドバイザー・看護師	分子栄養学ってなに？	
鈴木 美風	すずき書道教室 書現 師範格	ボールペン字・毛筆にチャレンジ	
木下 一雄	旭川市立大学保健福祉学部教授	いつでもネットがあるのが当たり前の子どもたち	上川南部
研究大会と同じ講師			稚内市
研究大会と同じ講師			宗谷管内
研究大会と同じ講師			留萌管内
吉田 修介	渡島教育局 社会教育主事	道教委の取組について	函館市
研究大会と同じ講師			渡島
研究大会と同様の扱い			檜山
研究大会と同じ講師			南空知
斉藤 萌	北海道教育庁空知教育局	子どもの望ましい生活習慣とデジタル技術とのよりよい付き合い方	北空知
折茂 武彦	レバンガ北海道代表取締役社長	こどもの自己肯定感を育む大人の関わり方	胆振東部
研究大会と同じ講師			胆振西部
研究大会と同じ講師			日高地区
研究大会と同じ講師			オホーツク東部地区
村中 直人	Neurodiversity at Work 株式会社 代表取締役	<叱る依存>の理解と対応	オホーツク中部地区
研究大会と同じ講師			オホーツク西部地区
研究大会と同じ講師			帯広市
研究大会と同じ講師			十勝管内
山崎 美枝	釧路短期大学生活科学科長	家庭の食卓がつくる健やかな成長～親としてできる栄養サポート	釧路市
研究大会と同じ講師			釧路管内
米谷 広美	根室教育局学校教育指導班 主査	家庭における学習習慣について	根室地方
村上 真琴	根室教育局社会教育指導班 主査	家庭における生活習慣について	
五十嵐一成	岩谷学園ひがし北海道IT専門学校 科長	AIの進化と多文化共生社会の実現	
飯田 雄士	岩谷学園ひがし北海道日本語学校 校長		
斉藤 誠	根室教育局教育支援課長	部活動の地域移行について	
成田 悠希	ネイパル厚岸 社会教育主事	SDGs 寄り道ステーション	
大槻奈緒子	ネイパル厚岸 事業係長		

## 2. 運営面の「工夫・改善」「成果と課題」

### (1) 工夫・改善

#### <小樽市>

- ・講師の資料のペーパーではなく、スクリーンを見ながら話を聞いてほしいという要望があった。縦長の会場であるが、席を可能な限り前にセッティングした。参加者から見づらいなどの意見はなかった。

#### <後志>

- ・少人数で運営できるよう、運営面の見直しを図った。
- ・準備までの会議等の回数を減らした。
- ・コストカットを意識し、無駄を削減。
- ・運営費用を工面するため、地域の外郭団体等にも協賛を募った。
- ・講演だけではなく、開催地にゆかりのある講師を呼び、ミニコンサートを開催できるように工夫した。

#### <旭川市>

- ・テーマ設定趣旨にあるとおり、楽しめるよう役員も含めた企画にしました。
- ・開会式は、教育局、市教委、校長会、から来賓をお招きし、教育局、市教委から挨拶いただきました。
- ・本年度は、分科会を設け、多くの参加者が楽しんでもらうことが出来るように設定しました。また、子ども連れの参加者もいるので、託児も設けて参加しやすくしました。



#### <上川南部>

- ・オンデマンドで動画を配信し、各単Pで会場を設け集合型で視聴、または各参加者が自宅等で視聴した。
- ・当日視聴できなかった会員のために、一週間の配信期間を設定した。

#### <函館市>

- ・子育て委員が主体となり研修会を企画した。

- ・テーマを1つに絞らず、子育て委員が話し合いたい内容を6つのテーマとし、テーマ毎に子育て委員が発表を担当した。

- ・子育て委員の発表を受けて参加者がグループで話しやすい内容になるよう工夫した。

- ・グループの話し合いにも会長・子育て委員が積極的に参加した。

#### <北空知>

- ・会場の収容人数の大きさから、特に人数制限を設けずに実施した。

- ・保護者の方の参加しやすい大会とするため、早くから研究大会講師（作家）を紹介し、作品の紹介を勧め、当日は講演後にサイン会を設けた。

#### <胆振東部>

- ・都合をつけ、集まっていただくPTA役員、会員の皆様にとって有意義で価値のある時間となるよう講師の選定や講演会の内容を工夫した。

#### <オホーツク中部>

- ・オンラインでの講演ということから、託児室を設けず親子でともに視聴できるように、別室視聴部屋を設置した。託児のための人員や謝礼金の節減につながった。

- ・講師の声の音量や質の調整を丁寧に行った。

#### <釧路市>

- ・昨年同様の運営方法で対面方式により開催した。

#### <根室>

- ・参加申し込みについてはQRコードを用いて直接入力方式にした。

- ・根室地方PTA研修大会と根室地区子育てを同日開催とし、午前中にすべて終了するようにした。

- ・開会式については、登壇者を絞り挨拶も少なくして従来より時間短縮を図った。

### (2) 成果と課題

#### <小樽市>

- ・準備段階では対面とLINE等を効果的に活用し、細やかに情報を共有することができ、当日は円滑な運営を行うことができた。

#### <後志>

- ・これまでの運営よりも業務のスリム化を図ることができた。

- ・運営費用を増額し、名のある講師を招聘し、大

会を盛況で終えることができた。

- ・講師招聘にあたりかなりの費用を必要としたため、運営費用はギリギリの運用だった。費用面を考慮すると講演は1本で良い。
- ・単独町村(特に小規模の町村)での運営担当は、会員減少によるPTA組織の衰退もあり、限界を迎えている。運営方法の見直しが必要。

#### <旭川市>

- ・参加者には、事前に分科会決定文書と持ち物等を記載したものを送付しました。全体会の資料は要項にはさみました。85名の申込で79名の参加がありました。昨年度より少し増えたようです。アンケートはグーグルフォームにしました。来年度は紙の資料を減らす工夫をしたいと思います。

#### <上川南部>

- ・オンデマンド配信のため多くの会員に視聴していただいた。

#### <函館市>

- ・課題としては、学校毎に研修会の周知の仕方が違うため、認知度が低いと感じる。参加人数が伸び悩んだ。
- ・子育て委員が自ら発表する試みを初めて行った。発表の準備をそれぞれが担うことで発表の仕方や資料の作成に関わり、より主体的な研修会を行えた。
- ・今回は各テーマ5分の発表だったが、委員会でリハーサルを行ったので時間通りに進めることができた。
- ・参加者は研修会が終わってからも残って話し合っていたくらい充実していた。

#### <北空知>

- ・開催地である沼田町PTA連合会、子育て研修会担当の芦別市PTA連合会と連携することにより、準備や会場づくり等スムーズに運営することができた。

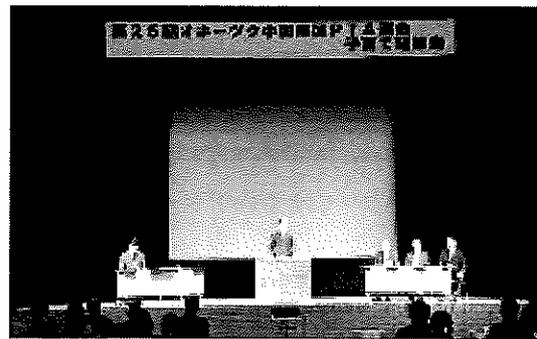
#### <胆振東部>

- ・100名を超える、多くの会員に参加していただいた。
- ・2時間という短い時間ではあったが、有意義な時間となった。
- ・有名な講師を呼ぶ際には予算が必要になることが課題である。

#### <オホーツク中部>

- ・講演の聞きやすさに関しては、来場した場合と遜色ないレベルにまで達することができた。

- ・経費をできる限り縮減した中で実施できた。



#### <釧路市>

- ・6月の総会に引き続いて、講演会や反省会など予定通り開催することが出来た。

#### <根室>

- 【成果】・5つの分科会を設定し希望を取り、その人数で分科会会場を決定することによって、参加者のニーズに対応することができた。
- 【課題】・QRコードによる申し込みにしたが、申し込み状況が事務局で一括集約となるので、各校が申し込み状況を把握することが困難であることから、申し込み状況を随時伝えることが手間として増えた。
- ・会場使用料がかかる地区については、学校を利用するなどの工夫によって、経費の削減ができるのではないか。

### 3. 内容面の「工夫・改善」「成果と課題」

#### (1) 工夫・改善

##### <小樽市>

- ・参加者同士の交流場面が何度も設定されており、講演内容を主体的に考えることができた。

##### <後志>

- ・開催地にゆかりのある講師を選定し、多くの人に来場してもらおうと工夫した。
- ・講演形態ではなく、「歌とお話」にすることで、研修会自体に飽きが来ないようにした。
- ・前段のPTA研究大会とのつながりを持つような講演になるよう講師と打ち合わせを行った。

##### <旭川市>

- ・参加者の方が楽しみながら交流を深めることを前提になるように配慮しました。
- ・各分科会の担当で内容が重複しないように講師を選定し、分科会の内容等について綿密に講師と打合せ調整を図りました。

##### <上川南部>

- ・研修内容についてGoogleフォームでアンケートを実施した。

##### <函館市>

- ・渡島教育局と共催し、発表する内容とリンクした情報提供をしていただき、子育て委員の発表が違和感なくできた。
- ・運営面と重なるがグループの話し合いがスムーズにできるような発表ができた。

##### <北空知>

- ・インターネット等について「させない」「怖い」ではなく、インターネットやデジタル技術の特性（優れている点・注意すべき点）を子どもたちや大人がよりよく理解して付き合うことで、新たなテクノロジーと接する機会が創出できることや、様々な情報に基づいて選択できるというよさに焦点を当ててお話していただいた。また、闇バイト情報に気付く力や、家庭での適切な食生活習慣の定着の大切さについても、動画等を効果的に用い、お話ししていただいた。

##### <胆振東部>

- ・講演だけではなく、参加者が一緒になって取り組める企画を用意したことでより有意義で記憶に残る時間となった。
- ・PTA会員のニーズに応じた講師を選定していく必要がある。

##### <オホーツク中部>

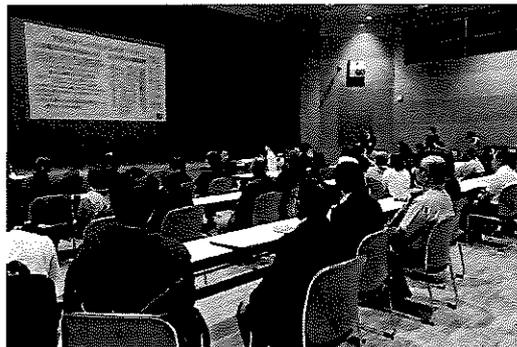
- ・子育て世代を対象としたものを選定。

##### <釧路市>

- ・終了時に、アンケートを実施した。次年度の研修会の内容や講師、演題の要望を集約した。

##### <根室地方>

- ・今日的な課題をテーマとし参加者が考える場面を設定したことで、時間が短く感じるほど、会場全体が集中して考え話し合うことができた。



#### (2) 成果と課題

##### <小樽市>

- ・育てにくい子供への関わり方を多く学んだが、それに向き合うためには、大人がリフレッシュする、自分にプチご褒美を与える、という講師のお考えに、気持ちが軽くなった参加者も多かったと考える。

##### <後志>

- ・参集者から「大変感動する内容だった」と大変好評だった。
- ・講師が前段のPTA研究大会の講演にも参加してくださるなど、相互に繋がりを深めた有意義なミニコンサートとなった。
- ・PTA研究大会とあわせて、2本、2時間30分の講演は長く感じた。次年度からは1本の講演でどうか。



<旭川市>

- ・参加者の皆様が、研修会を笑顔で終えて、アンケートも高評価でした。
- ・アンケートをグーグルフォームで入力いただきましたが、みなさんと楽しんでいたようです。この活動がなくならないように、たくさんの方に参加していただけるように考えていきたいです。

<上川南部>

- ・アンケートでは、多くの方から「インターネット環境の利用に関しては大きな関心のあるテーマであり学ぶべき内容が多かった」など肯定的な意見をいただき、好評だった。

<函館市>

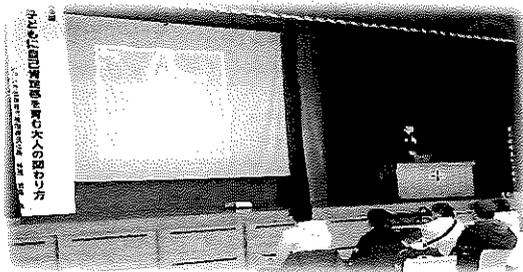
- ・子育て委員の発表は、参加者が同じ子育てする親として関心の高いものだったので、堅苦しくなく聴くことができたと思う。
- ・6つのテーマ（性教育・食育・不登校・親子関係・ネット問題・感情と向き合う）の思うところを親として発表してもらったが、専門家ではないので、その辺りをわかった上で参加者に聴いてもらうことが難しいと感じた。いろんな情報が溢れているので、偏向した発表になる恐れも感じた。

<北空知>

- ・児童・生徒全員の手元にデジタル端末が身近になっている今日、インターネットやデジタル技術に対する子どもや大人（保護者）のよりよい関わり方を学んだ。

<胆振東部>

- ・参加者には大変喜んでいただいた。
- ・今後もこのような企画を続けていければよいかと思う。



<オホーツク中部>

- ・アンケートから参加者の満足度が高い様子がうかがえた。

<釧路市>

- ・参加することが出来なかった会員のために、ライブ配信やYouTube配信の要望があった。

<根室地方>

- ・終了後、管内複数校から講師への授業リクエストがあり、年度内実施の運びとなった。
- ・分科会の具体的な内容を事前に周知するのが難しい。1次案内や2次案内にある程度詳しい内容を掲載する必要がある。
- ・参加者数が減少傾向にあるため、分科会の開設数を4つにしてもいいのではないだろうか。

## VI. 日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会



第72回 日本PTA北海道ブロック研究大会

# 宗谷管内・稚内大会

- 1 大会スローガン 「てっぺんから広げよう！子育ての輪と和と話」
- 2 大会主題 「未来を担う子どもたちの今とこれからの幸せ（well being）を願い、学び合い、連携し合うPTAをめざして」
- 3 主催 日本PTA北海道ブロック協議会（北海道PTA連合会・札幌市PTA協議会）
- 4 主管 稚内市連合PTA 宗谷管内PTA連合会
- 5 後援 公益社団法人日本PTA全国協議会 文部科学省 北海道 稚内市 猿払村 浜頓別町 中頓別町 枝幸町 豊富町 礼文町 利尻町 利尻富士町 幌延町 北海道教育委員会 稚内市教育委員会 猿払村教育委員会 浜頓別町教育委員会 中頓別町教育委員会 枝幸町教育委員会 豊富町教育委員会 礼文町教育委員会 利尻町教育委員会 利尻富士町教育委員会 幌延町教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会 宗谷校長会 稚内市校長会 猿払村校長会 浜頓別町校長会 中頓別町校長会 枝幸町校長会 豊富町校長会 礼文町校長会 利尻町校長会 利尻富士町校長会 幌延町校長会 北海道公立学校教頭会 宗谷公立学校教頭会 稚内市教頭会 猿払村教頭会 浜頓別町教頭会 中頓別町教頭会 枝幸町教頭会 豊富町教頭会 礼文町教頭会 利尻町教頭会 利尻富士町教頭会 幌延町教頭会 公益社団法人日本教育会
- 6 参加者 北海道内PTA会員ならびに教育関係者
- 7 参加費 5,000円（情報交換会は別途7,000円）
- 8 大会日程

【第1日目 10月4日（土）】 稚内総合文化センター 稚内東中学校 稚内南小学校 稚内南中学校 潮見が丘小学校 サフィールホテル稚内

11:45 12:00 13:30 14:00 17:00 18:00 20:00

運営者 受付	運営打ち合せ会議 (分科会毎)	受付	開会式・分科会	移動	情報交換会
-----------	--------------------	----	---------	----	-------

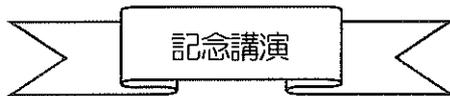
【第2日目 10月5日（日）】 稚内総合文化センター

8:30 9:00 9:15 10:00 11:30 12:00

受付	アトラク ション	全体会	記念講演	閉会行事
----	-------------	-----	------	------

## 9 分科会テーマ

領 域		分科会テーマ	担 当
第1分科会	組織運営	学校を支えるためにPTAと地域ができること	函館市PTA連合会
第2分科会	家庭教育	生活リズムを考える ～親子の絆を育む家庭教育の重要性～	日高地区PTA連合会 浦河第二中学校PTA
第3分科会	学校支援	学校・子ども・保護者が笑顔でつながり合える 学校支援のあり方	札幌市東区PTA連合会
第4分科会	地域連携	子育てを支える学校と地域のつながり	札幌市白石区PTA連合会
第5分科会	食育・情報	会員のニーズに対応した情報発信と取組	旭川市PTA連合会
特1分科会	中学生 討論会	明日も通いたくなる学校ってどんな学校？	稚内市連合PTA・南地区 (稚内南中学校PTA)
特2分科会	地域課題	「命の参観日」玉城ちはる氏による講演	稚内市連合PTA (潮見が丘小学校PTA)



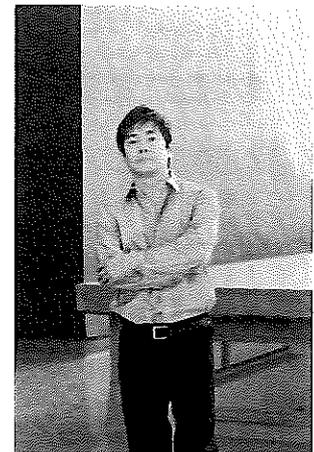
**演 題** 「戦後80年を迎えて  
～沖縄と北海道から平和を願う～」

**講 師** 菅 沢 和 史 氏

シンガーソングライター

俳優

元 THE BOOM ボーカル



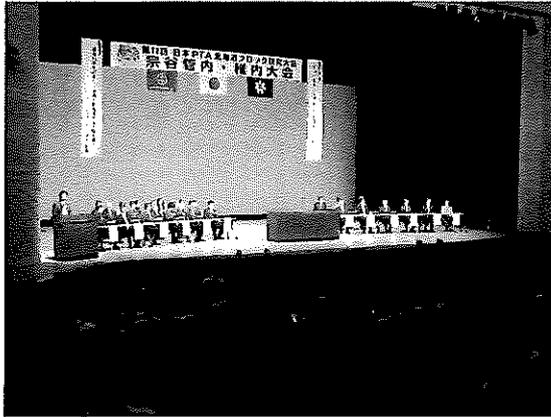
第72回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会実行委員会事務局

〒097-0024 稚内市宝来4丁目1-35

稚内市立稚内中央小学校内

TEL: 0162-23-3042 FAX: 0162-22-7923 e-mail: [wakkachu@circus.ocn.ne.jp](mailto:wakkachu@circus.ocn.ne.jp)

1日目は、稚内総合文化センター、稚内東中学校、稚内南小学校、稚内南中学校、潮見が丘小学校で5つの分科会と2つの特別分科会が開催され、2日目は、稚内総合文化センターで全体会、記念講演、閉会行事が行われた。



1日目の各分科会では、それぞれのテーマに基づき、各単Pや道P連各地区、札P協各区の特色あるPTA活動の取組の提言発表等があり、様々な視点から熱心な研究協議が行われた。

2日目の講演会では、元 THE BOOM のボーカルで俳優の宮沢和史氏による講演があり、「戦後80年を迎えて～沖縄と北海道から平和を願う～」の演題で、沖縄の人たちの思いや願い、それを戦後80年のいまどう受け止めていくのかなどについて話された。

最後に、来年度の道南大会での再会を願いながら大会を終了した。

#### <記念講演>

講師 宮沢 和史 氏  
 (元 THE BOOM ボーカル、俳優)  
 演題 「戦後80年を迎えて～沖縄と北海道から平和を願う～」

※分科会の記録は「大会集録」からの抜粋です。  
 詳しくは「大会集録」をご覧ください。

(※以下、敬称略)

#### ■第1分科会(組織・運営)■

##### 【分科会テーマ】

「学校を支えるためにPTAと地域ができること」  
 ☆助言者 稚内市立富磯小学校  
 校長 内山 淳司

☆司会者  
 函館市PTA連合会  
 事務局長 中村 和代

##### 【提言】

「子ども達の安心安全な環境づくりを目指して」  
 ～PTAと地域ができること～  
 ☆提言者 函館市PTA連合会  
 副会長 小林 庸一

##### 【提言の要旨】

函館市PTA連合会は今年度設立50周年を迎えた。特色ある事業として、単P会長研修・交流会(年2回)、会報発行(年2回)、青函PTA交流会、教育長と教育予算要望の懇談、新年交礼会、情報ハンドブックの公開などがあげられる。

函館市の小中学校再編・統合により、校区が広くなり、放課後を過ごす環境への不安の声が保護者と学校両方からあがった。令和元年にCSが設置され、翌年地域コーディネーターの配置などがあり、単Pと地域と一緒に考え、活動する機会が増えた。

大森浜小学校区では自宅のまわりで安心の目印であるオレンジバンダナを身につけて活動を行う「大森浜見守り隊」が立ち上がり、スタイルを変えながら現在も活動している。

昭和小学校区ではピンクのバンダナを身につけ「昭和小地域安全見守り隊」が発足。

今後もPTAが地域の大人と協力して子どもたちを見守り育てる持続的な活動を行っていく。

##### (主な協議内容)

- ◎協議の柱1「函館市の取組から学ぶ、私たちにできる安全環境づくり」
- PTAの体制を役員で縛ることなく、好きなとき、協力できるときに参加可とすることで、負担感を減らす。

○見守り活動に協力してくれるPTAの方が多  
い。その反面、次の世代が生まれないのが課題。  
○あいさつ運動などに取り組むも、不審者扱いさ  
れるなどの問題もあり。見守り活動をどう展開す  
るかという仕掛けづくりが大切。  
○函館市と同じように学校統廃合によって環境が  
変化したため、防犯対策としての見守りの必要性  
がでてきた。

◎協議の柱2「学校を支える意義と私たちにでき  
ること」

○PTAの活動が地域に見えていない現状があっ  
たので、広報紙などで「可視化」をして、地域を  
巻き込んだ活動を目指している。

○義務的なことばかりでは、持続的な取り組みに  
はならない。大人も楽しみながら活動することが  
大切。

○活動が年度限りにならないようにCSなどのサ  
ポート制度が仕組みとして定着し残るのが理想。

○なり手不足などによる教職員の減少を見据え、  
地域社会が教育に関わっていけるシステムづくり  
が求められる。

〈助言者から〉

○函館市P連による全市的な連携が前提にあるこ  
とで、より安心安全な取組につながっている。

○「笑顔でつながる」ことを大切に活動が子  
どもにとって大変よい取組になった。

○PTAの役割の変遷という点では、役職のスリ  
ム化や一人一係制を導入することで自主的に参加  
する流れを作り成果を上げることができている。

○今後のPTA活動に向けて、①参加しやすい②  
強制しない③スリム化④楽しい活動を行う、等が  
求められる。

○対話による信頼関係が最も重要であり、学校と  
保護者が信頼関係を築き、お互いを尊重しながら  
活動することで明日からのPTA活動がさらによ  
くなる。

## ■第2分科会（家庭教育）■

【分科会テーマ】

「生活リズムを考える

～親子の絆を育む家庭教育の重要性～」

☆助言者 宗谷健幸人プロジェクト

代表 門間 奈月

☆司会者 日高地区PTA連合会

事務局長 佐藤 恵美

【提言】

「家庭で取り組む規則正しい生活リズムの確立」  
～朝活30の取組を通して～

☆提言者 浦河町立浦河第二中学校PTA

校長 森 真治

【提言の要旨】

浦河第二中学校～同一校区の浦河東部小学校  
と隣接しており、両PTAが連携・協力体制をと  
っていて、専門部会や役員会なども合同で行って  
いる。

生徒指導のひとつとして取り組んでいた「朝活  
30」を生活リズムが乱れがちな夏・冬休みの活  
動として取り組んではどうかと、PTA役員会で  
話題となり取り組むようになった。朝、組み  
たいことを生徒自身が考え、保護者と相談しなが  
ら取り組む。記入する中身も生徒と保護者両方の  
負担にならないように工夫した。

デジタル機器・メディアの過度利用を防ぐため  
に家族で話し合うきっかけ作りになったという  
家庭もある。現状を直していくために、話して、  
振り返って見つめ直す機会をつくり、自分なりの  
行動目標を立てて取り組んでいるところを褒め  
て、認めてあげられたらと思う。

〈主な協議内容〉

◎協議の柱1「乱れがちになる夏休み、冬休みの  
生活リズムの確立を意識した取組について」

○「朝活30」の取組がとてもよいと思った。一  
人ではなくみんなで取り組んだことがよかったの  
では。

○子どもと一緒に話し合い自分でルールを決めさ  
せることで自主的に守ることにつながっていた。

○「朝活30」の取組はみんなで取り組めること  
で励みになるのでは。

○子どもがやりたいことを実現させるためにどう  
したらよいのか子どもと考えさせるとよい。

◎協議の柱2「長期休業中の過度なメディア利用  
を防ぐ取組について」

○夜9時になったら家の電気をすべて消すように

していた。大人も一緒に環境を作ることが大切。  
○取り上げたりするのではなく、自分で考えさせたい。

○子ども本人と話さずだけではなく、子どもがいるところで家族が話していると自然に会話に入って楽しむような空間を作ることができる。

○親が困っていることを夫婦で話すことはもちろんだが夫婦で話し合いづらいことはPTAで話し合うなど親同士のつながりもよい距離を持っていいのではないかな。

<助言者から>

○人は生きていく上で「食べる・動く・寝る」がきちんと成り立つことで、感情・思考のバランスがとれる。

○「早寝・早起き・朝ご飯」とともに、生活のリズムを整えるものとして「光・暗闇・外遊び」というキーワードがある。

○五感を使って学ぶことが大切。

○生き物として大事な部分をちゃんと満たしていくことが人間らしく生きていくためには必要。

○便利なものも危険な面があるから使わないということではなく、上手に使いながら危険なものは「消す」ものを同時に考え発展させていくことが大切。

### ■第3分科会（学校支援）■

#### 【分科会テーマ】

「学校・子ども・保護者が笑顔でつながり合える学校支援のあり方」

☆助言者 稚内市CS

統括CO 本間 正博

☆司会者 札幌市東区P連

副会長 加藤 真里

事務局長 村上 裕子

#### 【提言1】

「笑顔でつながり合える学校支援のために」  
～区P連ができること～

☆提言者 札幌市東区PTA連合会

副会長 八乙女伸江

#### 【提言の要旨】

東区PTA連合会は「心身ともに健康な子どもを育てるために楽しくPTA活動を進めよ

う」をテーマに、今年で創立40周年の節目を迎えた。各PTAをつなぐ情報交流の場として、そのつながりがより豊かなものになるよう模索している。

各PTAでとりくまれた学校支援は、ボランティアを導入したり、他機関と連携したり、保護者や地域の方々とのつながりを生む一助ともなった。学校の状況にあわせた様々な取組の工夫がみられた。

#### 【提言2】

「学校・子ども・保護者が笑顔でつながり合える学校支援のあり方」

☆提言者 札幌市立栄南小学校PTA

前会長 安田 康司

#### 【提言の要旨】

せっかく学校を通して作り上げられたコミュニティやPTA活動で培ったスキルをもった地域の方々や学校がつながるツールの構築が必要。そこで平成30年度からサタデースクール事業の一環として「栄南盆踊り体験」をきっかけに、おやじの会が中心となって企画、運営を行い、地域の方々へ参画いただけるよう呼びかけ、開催した。令和7年度からは、CSの枠組みの中で実施することになった。

これからの学校支援は、地域と学校とのつながりが今まで以上に必要になると感じる。保護者は子どもが卒業すると地域の人材になり、その人材が学校を支援することで持続可能な学校支援ができるのではないかな。

#### （主な協議内容）

◎協議の柱1「学校の実態に即した学校支援のあり方」

○できるところでできる範囲で関わろうという意識の持ち方が大事。大人同士の横のつながりを生かした声掛けでつながり、地域も巻き込む。

○結局自分たちが楽しめるかどうか、参加したいと思えるかどうかではないかな。そこがあれば、労力を注ぎ込めると思う。

○地域の宝（産業や文化、人材）を頼りに「PTAは地域作り」という意識が広がっていく支援。

○大きいことをいきなりではなく、小さいことからコツコツと導入していく。

◎協議の柱2「連携が深まり、持続可能なこれからの学校支援」

○楽しんで活動できる魅力があり、親が楽しく活動する（頑張る）姿を見せることが大切。

○日常からのPTA・学校との関わりが大切。学校・事務局の活動が互いに見えるようにする。

○みんなでやる目的があることが大切。「こんなことをやってみたいよね」という人がいれば、小さなことからではじめられるよう、相互支援ができる関係が必要。

○興味があるところに人が集まる。研修に人が集まらないがミニバレーには人が来る。ここに何かヒントがある。研修でも興味があるテーマを。

○「地学協働コーディネーター」としてPTAのOBが行うのが理想。

<助言者から>

○PTA活動の方針と学校経営方針が連動していることが重要。

○「対面の交流」×「ICT活用」＝「コミュニケーションの活性化」

○「人と人、地域とPTAの濃密なつながり」が「PTAづくりから街づくり」へとつながる。

○コロナ禍以前の活動の通り「復活させる」のではなく、学校・保護者・地域が「子どものため」「学校のため」に地域を含めた活動へとつなげていくことが重要となる。

○地域住民がCSを支援するサポーターとして子どもの支援にあたっている。学校・保護者・地域にとって大きな効果が期待できる。

#### ■第4分科会（地域連携）■

##### 【分科会テーマ】

「子育てを支える学校と地域とのつながり」

☆助言者 稚内市教育相談所

所長 佐々木 康

☆司会者 枝幸町P連

事務局次長 青柳 隆司

##### 【提言1】

「これからのPTAの在り方を探る！

～思い描く学校と地域の連携とは～」

☆提言者 札幌市白石区PTA連合会

会長 安藤 慎也

##### 【提言の要旨】

PTAや地域活動の参加者は減っている。その一方で、学校・地域・家庭のつながりが少しずつ薄れているように感じる。いま改めてPTAの存在意義やこれからのあり方を見つめ直す時期。

PTAは単なる保護者の集まりではなく、学校や地域とつながる「対話の場」である。双方向の対話を重ねることでかけがえのない場となる。PTAは大人にとって“もうひとつの学校”。PTAは子どもたちの未来だけでなく、大人の未来も照らしてくれる存在。

##### 【提言2】

「地域・学校～人と人をつなぐキラリ☆人」

☆提言者 札幌市立南郷小学校PTA

会長 小林 秀子

##### 【提言の要旨】

子どもたちが育つ環境には、必ず人とのつながりや関わりが不可欠。学校が考える地域連携とPTAができる地域連携をともに考えていきたい。

地域活動の縮小検討と、PTA活動に対する保護者や教師の意識の変化。活動の視点や相互のアイデアを出し合う「対話の場」を工夫する努力。先輩から引き継いだ“想い”をさらに進化・発展できる取組、大人である私たちが子どもと同様に想像し学んでいける場、人とのつながり、想いの共有、楽しむことの大切さをつないでいける場。

##### 〈主な協議内容〉

○地域には、クラブ活動の講師や商工会、福祉団体など多様な「キラリ人」が存在する。防災運動会などの取組を通じ、他世代の交流が広がり、子どもたちの社会性が育まれる。

○部活動支援や授業補助など、地域や保護者が学校に関わる機会が増えており、子どもたちの意欲や自信の向上につながる。

○PTA活動の担い手不足が課題となる中、役職をなくすなど柔軟な仕組みづくりが求められる。保護者と教職員の橋渡し役として、PTAの存在意義を改めて確認。

##### 〈助言者から〉

○PTAは理想と現実の狭間にありながら、学校



○先生と保護者が「子ども」という共通点で広くつながるPTAは、学びのレベルを引き上げる大きな強みを持つ特殊な組織。

### ■特別第1分科会（中学生討論会）■

#### 【分科会テーマ】

「明日も通いたくなる学校って「どんな学校？」  
☆助言者 稚内市立稚内南中学校  
PTA会長 飯沼 剛  
☆司会者 稚内市立稚内南中学校  
教頭 飯田 毅

#### 【提言】

「明日も通いたくなる学校って「どんな学校？」  
☆提言者 稚内市立稚内南中学校  
校長 本間 到

#### 【提言の要旨】

学校には子どもたちの心理的安全性を確保することが急務となっている。本分科会ではさまざまな状況で苦しんでいる子どもたちがいることを前提としながら、大人だけでなく子ども自身の力も活用して「明日も通いたくなる学校ってどんな学校」をテーマに子どもたち同士の話し合いを通じ、いじめのない学校づくりや、誰もが安心して通える学校をどう作っていくか、本音を語り合いながらその手立てを探り、各学校の実践を深めていくことを目的とする。

稚内市は昭和61年に「ふるさとの時代を担う子どもたちのすこやかな成長と平和なまちづくりをすすめることはすべての大人の責任である。」とし、子育て平和都市宣言が採択された。これは全国的にも珍しく、令和の時代になってもこの宣言の趣旨は稚内市民の中に宿り続けている。

子どもレベルでも、「みんなが安心して通える学校を作ろう」を目的の一つとして「愛と平和を考える子ども会議」が発足。これは現在まで続いており、名称は「子ども会議」と変わったが、根本の精神は引き継がれ、安心安全な学校をつくるために何ができるか考えている。

学校の主人公は誰か、と質問したときに「それは児童生徒である」と胸を張って言いたい。

#### ◎中学生討論会

○通いたくない学校とはどんな学校 ～ ・いじめがある。・人間関係が悪く嫌がらせがある。・空

気が悪い。

○どんな学校が「明日も通いたくなる学校」か  
～ ・授業が楽しい。・先生方が介入しすぎない。・みんなでルールを守って平等が感じられる。

#### ◎中学生とPTAの話し合い

○楽しい授業とは～双方向な授業。・生徒会とPTA役員の話し合いがあり、どんな学校にしたいか話す場～大人の力を借りる。・負の面よりも楽しさや明るさに目を向ける。

#### ◎参加PTA同士の話し合い

○「明日も通いたくなる学校」にするためにPTAとして何ができるか～ ・親と教師の良好な関係性を築く。・子どものニーズに合わせたイベントを考える。・頼れる大人。・学校がつくる安心感。

#### （全体講評～まとめ）

○子どもたちが楽しく通えている学校をつくっているのは、先生だけでなく、生徒も考え自分たちでよくしたいと思っているから。

○生徒会役員がPTA会長の私のところに来て、行事で生徒全員のTシャツを作りたいからPTAの力を貸してほしいと、必要性も含めて丁寧にプレゼンしてくれた。「こんな中学生がいるのか」と感動し即決した。

○学校と生徒、PTAが協力して「明日も通いたくなる学校」をつくっていくひとつになる。

### ■特別第2分科会（地域課題）■

#### 【分科会テーマ】

講演「命の参観日」

☆助言者 稚内市立潮見が丘小学校PTA  
会長 小寺 亘  
☆司会者 稚内市立潮見が丘小学校  
教頭 小棚木秀行

#### 【提言】

講演「命の参観日」

☆提言者（講師） シンガー・ツングライター 家族相談士  
玉城ちはる

#### 【提言（講演）の要旨】

稚内市では、令和6年6月に開催された「稚内市教育講演会」の講師として、玉城ちはるさんに講演

いただいた。「ホストマザー」として約10年間で36名の留学生を支援した経験から「多文化共生」そして「共に生きること」の難しさ大切さについて講話と歌唱により伝えていただいた。ぜひ多くの子どもたちにも大人たちにも玉城さんのお話をきいてほしいと思い、講演をお願いした。

「他者を理解し、違いを認め合う」ことや、「お互いを受け入れる」ことはとても難しい。玉城ちはるさんは、日本・中国・韓国の3つの国の子どもたちと共同生活した実体験をもとに、「相手の気持ちや価値観に向き合い、寄り添いながら対話を重ねていくことの大切さ」を伝えてくださる。また、講演の中で紹介してくれる「優しさ貯金ゲーム」を参加者でおこない、会場内には相手への感謝と慈しみの気持ちがあふれる。

稚内市でおこなわれた講演会に参加した保護者・教育関係者からは「子育ての悩み」「学級の子どもたちとの関わり方の悩み」「子どもたち同士の関わり方の悩み」に対する答えとなる内容だったと、たいへん好評だった。

現代を生きる子どもたちと向き合い、育てていく保護者・学校関係者にとって、とても励みとなる、勇気をもらえるお話を聞かせていただけるにちがいない。

#### ◎グループ協議

○よりよいところをいくつも重ねて伝えてあげることで関係がよくなるのかなと思った。

○玉城さんの講演を聞いたわが子が、心を動かされるような報告を親にしてきたことが素敵だなと思った。

○「相談することはよいことだ」ということをもっと広めていくことが大切。

○子ども一人ひとりに対して言い方や伝え方を変えていく必要がある。

○先生の心が豊かであると、子どもの心も豊かになる。先生も心が大切だと思う。

#### ◎優しさ貯金ゲーム

①2人で握手をしながら②相手の直してほしいところとよいところを言い③もう一人も同じくいい④お互いに（一緒に）「ありがとう」「ごめんね」

「大好き」と言う。感謝・謝罪・愛情の気持ちを伝え合うことで、自己肯定感につながり、相手の

安心・信頼、自身の強さ・優しさも意識できる。

#### 〈講演・まとめ〉

○自分の価値観を相手に押しつけるのではなく、対話をしていくことで相手を理解していくことの大切さ。

○黙っていても相手を理解することはできない。だからこそ「自分の気持ちを言葉にする力」を身につけてほしい。

○もうひとつ身につけてほしい力は「相談できる力」。

○子どもも大人もお互いの価値観や気持ちを理解するためには対話が必要不可欠。

○それぞれの価値観や気持ちに向き合い対話することでみんなの生きやすさにつながる。

○自分を信じて相談すれば必ず誰かが助けてくれる、そうすれば人を信じられるようになり、周りからも信じてもらえるようになる、そんな自分を好きになり、周りの人も好きになる、そうすれば周りも自分のことを好きになってくれる。

## Ⅶ. ブロック連絡会

### 1. ブロック連絡会開催のねらい

北海道PTA連合会は、平成21年度よりブロック連絡会を活用して組織強化事業を展開している。21年度は道P連の役員と地区役員等が一堂に会してそれぞれの事業についての説明と意見交換を行った。22年度から委員会担当副会長及び地区毎の担当者の配置をお願いし、連絡会の充実を図ってきた。

令和7年度は下記の内容で開催した。

- 道P連事業や委員会の取組についての報告・説明
- ブロック内各地区P連の活動状況の交流
- ブロック研修会（講演会など、可能な範囲で開催市町村の会員に呼びかけ、多くの人に参加してもらう。）
- 道P連や道教委に対するの質問・要望

### 2. ブロック連絡会の役員構成

- ☆会長 1名  
（地区会長の中からブロック毎に互選～ブロック選出道P連副会長）
- ☆副会長 2名  
（地区会長の中からブロック毎に互選）
- ☆事務局長 1名  
（ブロック会長と緊密な連絡調整可能な事務局を選任）

### 3. ブロック連絡会の開催日程及び内容について

#### (1) 第1回ブロック連絡会

- ①日時 令和7年6月7日(土)
- ②場所 ホテルポールスター札幌
- ③対象 令和7年度総会出席者
- ④内容

- ・自己紹介
- ・ブロック連絡会の趣旨説明

- ・ブロック体制の確立
- ・今後の予定等



#### (2) 第2回ブロック連絡会

- ①日時 令和6年6月28日(土)  
\*委員会・地区事務局長会終了後
- ②場所 ホテルポールスター札幌
- ③対象 委員会・地区事務局長会出席者
- ④内容 第3回ブロック連絡会の予定

#### (3) 第3回ブロック連絡会

- ①日時 7月～11月のできるだけ早い時期が望ましい。（研究集録の執筆や道P連事業の説明、各ブロックの交流等を考慮）
- ②場所 各ブロック
- ③対象
  - ・地区役員（会長、事務局長）
  - ・開催市町村P連役員等
  - ・道P連会長
  - ・道P連事務局
- ④内容
  - ・道P連事業や委員会の説明
  - ・各地区の活動の交流、意見交換
  - ・道P連や道教委等への質問、要望
  - ・ブロック研修会

#### (4) 第4回ブロック連絡会の開催が必要なブ

- ロックは、第2回地区事務局長会議終了後、同会場で実施
- 対象～ブロック会長と地区事務局長

◎第3回ブロック連絡会の日時・内容等

【第1ブロック】

1. 日時 令和7年9月27日(土)
2. 場所 札幌市TKP札幌カンファレンスセンター北3条
3. 参加者 17名
4. 研修内容
  - ・新田大志氏(特定非営利活動法人ジェルメ・まるしえ理事長)、古原祥子氏(石狩市教育委員会SSW)による講演  
「石狩市の現状や課題」に関する講演
  - ・石狩教育局社会教育指導班からの情報提供
  - ・道P連や各地区P連の活動報告・交流



【第2ブロック】

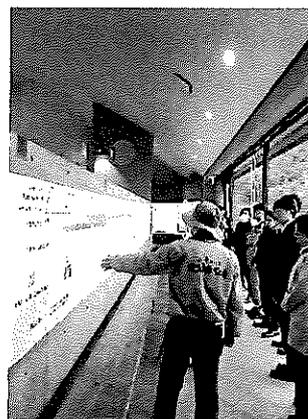
1. 日時 令和7年11月5日(水)
2. 場所 オンライン
3. 参加者 18名
4. 研修内容
  - ・今後のPTAの在り方について(留萌管内P連のプレゼンテーション)
  - ・道P連や各地区P連の活動報告
  - ・留萌教育局からの情報提供

【第3ブロック】

1. 日時 令和7年10月18日(土)
2. 場所 北斗市農業振興センター
3. 参加者 23名
4. 研修内容
  - ・道P連や各地区P連の活動報告
  - ・グループ協議「各地区P連の課題解決について、今後必要となるPTA活動についてや持続可能なPTA活動について」

【第4ブロック】

1. 日時 令和7年10月18日(土)
2. 場所 伊達市黄金地区コミセン・北黄金貝塚
3. 参加者 10名
4. 研修内容
  - ・道P連(含各委員会)の活動
  - ・各地区P連の実践交流
  - ・世界遺産北海道・北東北縄文遺跡群「北黄金貝塚」の施設見学と説明



【第5ブロック】

1. 日時 令和7年10月18日(土)
2. 場所 釧路市生涯学習センター
3. 参加者 20名
4. 研修内容
  - ・釧路教育局社会教育指導班からの情報提供  
「子どもをネットトラブルから守るために」
  - ・北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程による研究発表
  - ・道P連(含各委員会)の活動
  - ・各地区P連の情報交流

## Ⅷ. 第43回全道PTA広報紙コンクール

第43回全道PTA広報紙コンクールは、令和7年1月～令和7年12月の間に発行された広報紙を対象に実施した。今年度は、地区応募数57点の中から全道各地区の予備審査を経た49点の広報紙が集まった。

道P連では、教師代表委員と事務局で一次審査を行い、その後、専門家を含めた審査委員会を構成し、二次審査を行い、各賞を決定した。

入選作品の中から日本PTA全国協議会主催の第48回全国小・中学校PTA広報紙コ

ンクールへ応募作品として推薦することになる。

昨年度の第42回全道PTA広報紙コンクールの結果により、第47回全国小・中学校PTA広報紙コンクールに応募作品として推薦されたものの中から、岩見沢市立緑中学校PTAの「みどり」が日本PTA全国協議会佳作を受賞した。

### 第43回（令和7年度）全道PTA広報紙コンクール 受 賞 P T A

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| ○ 大 賞           | (3単P)          |
| 北海道知事賞          |                |
| 北海道新聞社賞         | 旭川市立愛宕東小学校PTA  |
| 北海道教育委員会教育長賞    |                |
| 北海道新聞社賞         | 稚内市立潮見が丘小学校PTA |
| 北海道PTA連合会会長賞    |                |
| 北海道新聞社賞         | 岩見沢市立緑中学校PTA   |
| ○ 優 秀 賞         | (13単P)         |
| (公社)日本PTA全国協議会賞 | 千歳市立みどり台小学校PTA |
| 日本教育新聞社賞        | 函館市立東山小学校PTA   |
| 同               | 釧路市立芦野小学校PTA   |
| 北海道小学校長会賞       | 北見市立南小学校PTA    |
| 同               | 函館市立昭和小学校PTA   |
| 北海道中学校長会賞       | 芽室町立芽室中学校PTA   |
| 同               | 北見市立おんねゆ学園PTA  |
| 北海道公立学校教頭会賞     | 小樽市立稲穂小学校PTA   |
| 同               | 小樽市立朝里小学校PTA   |
| 北海道PTA連合会賞      | 東神楽町立東聖小学校PTA  |
| 同               | 旭川市立東町小学校PTA   |
| 北海道PTA安全互助会賞    | 北見市立北小学校PTA    |
| 同               | 北見市立美山小学校PTA   |

○ 審査員特別賞（北海道新聞社賞）

（15単P）

音更町立駒場小学校PTA  
本別町立本別中央小学校PTA  
北見市立南中学校PTA  
旭川市立六合中学校PTA  
函館市立深堀小学校PTA  
北見市立北中学校PTA  
北見市立高栄中学校PTA  
愛別町立愛別小学校PTA

帯広市立稲田小学校PTA  
浦河町立堺町小学校PTA  
釧路市立鳥取小学校PTA  
豊富町立兜沼小中学校PTA  
芽室町立芽室西中学校PTA  
中札内村立中札内中学校PTA  
浦幌町立浦幌小学校PTA

○ 奨励賞

（15単P）

旭川市立青雲小学校PTA  
猿払村立鬼志別小学校PTA  
平取町立振内小学校PTA  
帯広市立緑丘小学校PTA  
音更町立音更中学校PTA  
浦幌町立浦幌中学校PTA  
北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程PTA  
釧路市立湖畔小学校PTA

中富良野町立中富良野小学校PTA  
函館市立巴中学校PTA  
帯広市立帯広第四中学校PTA  
芽室町立芽室南小学校PTA  
中札内村立上札内小学校PTA  
釧路市立共栄小学校PTA  
釧路市立釧路小学校PTA

（順不同）

〈巻末資料1〉 令和7年度 道P連役員名簿

		敬称略	
役 職	氏 名	所 属	
会 長	廣 瀬 堅 一	1 ブロック	小樽市 P 連
副 会 長	漆 崇 博	1 ブロック	石狩管内 P 連
	安 達 仁	2 ブロック	留萌管内 P 連
	秋 山 慎 一 郎	3 ブロック	函館市 P 連
	南 川 達 彦	4 ブロック	胆振西部 P 連
	松 野 史 寛	5 ブロック	釧路市 P 連
	高 橋 梨 絵	会 長 指 名	小樽市 P 連
	鎌 本 か お り	会 長 指 名	旭川市 P 連
	清 水 武 志	会 長 指 名	釧路管内 P 連
	内 海 洋	北 海 道	小 学 校 長 会
	岡 田 一 之	北 海 道	中 学 校 長 会

監 査	高 木 智 靖	1 ブロック	石狩管内 P 連
	八 田 忠 善	4 ブロック	日高地区 P 連
	川 本 学	5 ブロック	釧路市 P 連

教師代表委員	杉 浦 浩 浩	組 織 ・ 教 育	石 狩 市
	増 田 昭 雄	子 育 て	小 樽 市

事 務 局 〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 STV時計台通ビル 6階

事 務 局 長	城 野 文 久
事 務 局 次 長	出 村 好 孝
事 務 局 次 長	椿 野 次 雄
事 務 局 次 長	山 村 健 史

TEL 011-251-6937  
011-221-7680  
FAX 011-210-0929  
Eメール info@hokkaido-pta.jp

〈巻末資料2〉 令和7年度 理事・子育て委員 名簿

(敬称略)

ブロック	振興局	No.	地区名	理事	子育て委員
1	石狩	1	石狩	漆 崇 博	齋 藤 英 枝
	後志	2	小樽市	栗 田 徹	高 橋 梨 絵
		3	後志	赤 石 哲 明	山 田 雅 仁
2	上川	4	上川北部	松 永 裕 史	佐 藤 聡 太
		5	旭川市	菅 原 達 朗	鎌 本 か お り
		6	上川南部	中 村 亮 太	藤 浪 則 文
	宗谷	7	稚内市	出 村 賢 志	池 野 奈 穂 美
		8	宗谷	滝 口 智 也	大 塚 真 央
	留萌	9	留萌	安 達 仁	泉 麻 美
3	渡島	10	函館市	秋 山 慎 一 郎	中 島 登 詩 子
		11	渡島	三 谷 百 十 樹	河 辺 晴 奈
	檜山	12	檜山	日 置 勇 馬	早 坂 文 香
4	空知	13	南空知	谷 内 篤 史	西 尾 正 人
		14	北空知	木 村 拓 哉	川 村 丞 次
	胆振	15	胆振東部	曾 賀 玄 瑞	茂 木 翼
		16	胆振西部	南 川 達 彦	森 裕 之
	日高	17	日高	幕 田 優 祐	川 上 裕 美
5	オホーツク	18	オホーツク東部	新 輪 誠 一	目 黒 寛 樹
		19	オホーツク中部	佐 々 木 雄 一	和 田 潤
		20	オホーツク西部	工 藤 基 也	花 松 邦 恵
	十勝	21	帯広市	佐 藤 真 也	福 永 裕 之
		22	十勝	高 橋 匠	高 室 智 全
	釧路	23	釧路市	松 野 史 寛	山 本 美 那 子
		24	釧路	吉 田 悟 志	石 川 梨 香
	根室	25	根室	五 十 嵐 一 隼	本 間 玲 子

〈巻末資料3〉 北海道PTA連合会地区割表

振興局	地 区	市 町 村	市町村数	
1	石狩 1 石狩管内	当別町・石狩市・江別市・新篠津村・千歳市・恵庭市 北広島市	7	
	後志	2 小樽市	1	
		3 後 志	積丹町・神恵内村・古平町・余市町・泊村・共和町・仁木町 赤井川村・俱知安町・京極町・喜茂別町・留寿都村・真狩村 ニセコ町・岩内町・蘭越町・寿都町・黒松内町・島牧村	19
2	上川	4 上川北部	11	
		5 旭川市	1	
		6 上川南部	富良野市・占冠村・南富良野町・中富良野町・上富良野町 美瑛町・東神楽町・東川町・愛別町・上川町・当麻町	11
	宗谷	7 稚内市	1	
		8 宗谷管内	豊富町・猿払村・浜頓別町・中頓別町・枝幸町・利尻町 利尻富士町・礼文町・幌延町	9
	留萌	9 留萌管内	留萌市・増毛町・小平町・苫前町・羽幌町・初山別村 遠別町・天塩町	8
3	渡島	10 函館市	1	
		11 渡 島	北斗市・長万部町・八雲町・森町・鹿部町・七飯町 木古内町・知内町・福島町・松前町	10
	檜山	12 檜 山	上ノ国町・江差町・厚沢部町・乙部町・今金町・せたな町 奥尻町	7
4	空知	13 南空知	9	
		14 北空知	砂川市・上砂川町・浦臼町・新十津川町・歌志内市・深川市 奈井江町・滝川市・雨竜町・妹背牛町・秩父別町・沼田町 芦別市・赤平市・北竜町	15
	胆振	15 胆振東部	苫小牧市・安平町・むかわ町・厚真町・白老町	5
		16 胆振西部	室蘭市・登別市・伊達市・豊浦町・洞爺湖町・壮瞥町	6
	日高	17 日高地区	えりも町・様似町・浦河町・新ひだか町・新冠町・平取町 日高町	7
5	オホーツク	18 オホーツク東部地区	網走市・斜里町・清里町・小清水町・大空町	5
		19 オホーツク中部地区	北見市・置戸町・訓子府町・佐呂間町・美幌町・津別町	6
		20 オホーツク西部地区	紋別市・遠軽町・湧別町・雄武町・興部町・西興部村・滝上町	7
	十勝	21 帯広市	1	
		22 十勝管内	広尾町・大樹町・中札内村・更別村・豊頃町・幕別町 芽室町・清水町・音更町・池田町・浦幌町・本別町 士幌町・鹿追町・新得町・上士幌町・足寄町・陸別町	18
	釧路	23 釧路市	1	
		24 釧路管内	白糠町・釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町・弟子屈町・鶴居村	7
	根室	25 根室地方	根室市・羅臼町・別海町・中標津町・標津町	5

合計 178

〈巻末資料4〉 北海道ブロック研究大会開催地区一覧 (含予定)

回	年度	開催地区	開催日	備考	回	年度	開催地区	開催日	備考
1	S 29	札幌市	9/15.16		31	59	紋別市	10/20.21	5
2	30	小樽市	10/21.22	1	32	60	倶知安町	10/19.20	1
3	31	岩内町	9/ 7.8	1	33	61	札幌市	6/ 24	
4	32	深川町	9/ 1.2	2			旭川市	8/22.23	全国大会
5	33	小樽市	7/26.27	全国大会	34	62	函館市	10/ 1.2	3
6	34	帯広市	9/ 5.6	5	35	63	静内町	10/ 7.8	4
7	35	滝川市	9/10.11	4	36	H 1	釧路市	10/20.21	5
8	36	網走市	9/ 9.10	5	37	2('90)	札幌市	10/26.27	
9	37	室蘭市	9/15.16	4	38	3	千歳市	10/12.13	1
10	38	函館市	9/22.23	3	39	4	稚内市	9/19.20	2
11	39	旭川市	9/13.14	2	40	5	函館市	11/ 2.3	3
12	40	札幌市	9/ 5.6		41	6	岩見沢市	10/ 1.2	4
13	41	釧路市	9/17.18	5	42	7('95)	札幌市	8/20.21	全国大会
14	42	岩見沢市	9/ 9.10	4	43	8	帯広市他	10/12.13	5
15	43	北見市	9/ 7.8	5	44	9	小樽市	10/11.12	1
16	44	札幌市	8/ 7.8	全国大会	45	10	旭川市	10/10.11	2
17	45	名寄市	9/12.13	2	46	11	札幌市	10/16.17	
18	46	函館市	9/18.19	3	47	12('00)	江差町	10/14.15	3
19	47	苫小牧市	9/ 9.10	4	48	13	苫小牧市	10/13.14	4
20	48	帯広市	9/ 8.9	5	49	14	北見市	10/ 5.6	5
21	49	小樽市	10/12.13	1	50	15	札幌市	10/25.26	
22	50	旭川市	10/11.12	2	51	16	大雪圏	8/27.28	全国大会
23	51	函館市	10/ 3.4	3	52	17('05)	千歳市	10/22.23	1
24	52	小樽市	10/ 29	1	53	18	函館市	9/30.10/1	3
		札幌市	8/26.27	全国大会	54	19	札幌市	10/20.21	
25	53	美唄市	10/15.16	4	55	20	芦別市	10/ 4.5	4
26	54	根室市	9/22.23	5	56	21	釧路市	10/ 3.4	5
27	55	江別市	10/18.19	1	57	22('10)	余市町	9/18.19	1
28	56	旭川市	10/17.18	2	58	23	札幌市	10/ 1.2	
29	57	函館市	10/ 3.4	3	59	24	稚内市	10/ 6.7	2
30	58	室蘭市	10/ 1.2	4	60	25	函館・北斗市	10/ 5.6	3

回	年度	開催地区	開催日	備考	回	年度	開催地区	開催日	備考
61	26	登別市	10/11.12	4	92				
62	27('15)	札幌市	8/21.22	全国大会	93				
63	28	帯広市	10/ 8.9	5	94				
64	29	小樽市	10/ 7.8	1	95				
65	30	旭川市	10/ 6.7	2	96				
66	R元	札幌市	10/12.13	/	97				
67	2('20)	函館市	10/3.4(中止)	3	98				
68	3	岩見沢市	10/9(中止)	4	99				
69	4	北見市	10/ 8.9	5	100				
70	5	札幌市	10/21.22	/	101				
71	6	千歳市	10/19.20	1	102				
72	7('25)	稚内市	10/4.5	2	103				
73	8	函館市 七飯町	10/10.11	3	104				
74	9	札幌市	10/16.17	/	105				
75	10			4	106				
76					107				
77					108				
78					109				
79					110				
80					111				
81					112				
82					113				
83					114				
84					115				
85					116				
86					117				
87					118				
88					119				
89					120				
90					121				
91					122				

〈巻末資料5〉 令和7年度 地区PTA連合会事務局一覧

[敬称略]

ブロック	振興局	No.	地区名	事務局長	事務局	〒	住所	TEL	学校数			
									小	中	併・他	計
1	石狩	1	石狩管内	◎早川 久夫	石狩市立紅南小	061-3211	石狩市花川北1条6丁目1	0133-74-0318 FAX 0133-74-0317	60	34	6	100
		2	小樽市	◎日下部匡彦	小樽市立朝里小	047-0152	小樽市新光2丁目6-1	0134-54-6414 FAX 0134-54-6423	16	11	1	28
	後志	3	後志	◎鹿毛 貴之	仁木町立仁木小	048-2406	仁木町西町1丁目52-4	0135-32-2013 FAX 0135-32-2585	36	24	0	60
2	上川	4	上川北部	◎藤原 聡	中川町立中央小	098-2802	中川町中川221-1	01656-7-2841 FAX 01656-7-2842	20	14	4	38
		5	旭川市	○鈴木 玲子	P連事務所	070-0036	旭川市6条通5丁目 日章小内	0166-23-2916 FAX 0166-23-2917	48	24	2	74
		6	上川南部	◎民輪 伸幸	富良野市立扇山小	076-0021	富良野市緑町8-20	0167-22-3255 FAX 0167-23-6719	28	13	3	44
	宗谷	7	稚内市	◎川原 修子	稚内市立稚内中央小	097-0024	稚内市宝来4丁目1-35	0162-23-3042 FAX 0162-22-7923	9	5	1	15
	8	宗谷管内	◎俵あゆ子	枝幸町立歌登小	098-5206	枝幸町歌登西町124	0163-68-2409 FAX 0163-68-2489	21	12	3	36	
留萌	9	留萌管内	◎田谷 典久	留萌市立港南中	077-0037	留萌市沖見町2丁目141番地	0164-42-1898 FAX 0164-42-1899	14	9	2	25	
3	渡島	10	函館市	○中村 和代	P連事務所	041-0835	函館市東山2丁目3-1 東山小内	0138-55-6110 FAX 0138-55-6150	37	17	2	56
		11	渡島	◎坂本 学	鹿部町立鹿部中	041-1403	茅部郡鹿部町字宮浜281	01372-7-3114 FAX 01372-7-3115	33	18	2	53
	檜山	12	檜山	◇野口 智史	今金町立今金小	049-4308	今金町今金108	0137-82-0224 FAX 0137-82-0225	13	9	0	22
4	空知	13	南空知	◇櫻庭 慎二郎	栗山町立栗山中	069-1508	栗山町湯地60-9	0123-72-0269 FAX 0123-72-5220	25	18	1	44
		14	北空知	◇西木 洋人	沼田町立沼田中	078-2204	沼田町西町1-9	0164-35-2850 FAX 0164-35-2255	29	17	0	46
	胆振	15	胆振東部	◎圓山 芳史	苫小牧市立緑小	053-0042	苫小牧市三光町2丁目6-5	0144-32-6501 FAX 0144-32-6502	30	20	1	51
		16	胆振西部	◎萩原 享 (室蘭市立八丁平小)	室蘭市立旭ヶ丘小	050-0073	室蘭市宮の森町1丁目5-5	0143-42-2001 FAX 0143-42-2002	27	18	2	47
	日高	17	日高地区	◎佐藤 恵美	様似町立様似中	058-0015	様似郡様似町錦町53-5	0146-36-3141 FAX 0146-36-3142	22	14	0	36
オホーツク	18	オホーツク東部地区	◎玉造 至	清里町立清里小	099-4405	清里町羽衣町33	0152-25-2064 FAX 0152-25-3011	14	10	2	26	
	19	オホーツク中部地区	◎天野 昌明	北見市立美山小	090-0068	北見市美山町南9丁目36-8	0157-22-1105 FAX 0157-26-8595	32	19	1	52	
	20	オホーツク西部地区	◎若松 征一	湧別町立ゆうべつ学園	099-6414	湧別町錦町223	01586-5-2410 FAX 01586-5-2418	18	13	8	39	
5	十勝	21	帯広市	◎合田 真晃	帯広市立愛国小	089-1182	帯広市愛国町基線23	0155-64-4751 FAX 0155-64-4765	25	13	1	39
		○島田 美恵		P連事務所	080-0808	帯広市東8条南11丁目1 柏小内	0155-21-3580 FAX 0155-21-3580					
22	十勝管内	◇山畑 愉徳	浦幌町立浦幌中	089-5636	浦幌町万年339	015-576-2421 FAX 015-576-2744	50	31	1	82		
釧路	23	釧路市	○尾崎 文雄	P連事務所	085-0826	釧路市城山1丁目14-35 城山小内	0154-41-1502 FAX 0154-41-1502	24	13	3	40	
	24	釧路管内	◇千田 充	標茶町立標茶中	088-2313	標茶町常盤9丁目1	015-485-2047 FAX 015-485-4021	21	15	5	41	
根室	25	根室地方	◎角田 俊幸	羅臼町立羅臼小	086-1833	羅臼町本町41	0153-87-2006 FAX 0153-87-4504	18	14	5	37	
計									670	405	56	1,131

◎校長 ○P連事務所事務局長 ◇教頭

	I	II	III	IV	V
ブロック	石狩管内P連	留萌管内P連	函館市P連	胆振西部P連	釧路市P連
事務局長	早川 久夫	田谷 典久	中村 和代	萩原 享	尾崎 文雄

## 編 集 後 記

令和7年度も弊会の研修事業に関わっていただいた全ての方々のご協力をいただき、研究集録を発刊できました。

編集した際に感じたことは、執筆に携われた方が、他にもたくさんのお仕事がある中で研究大会や子育て研修会を企画運営し、会議をすすめ、まとめや報告までをしてくださったことは、ほんとうにたいへんだったろうな、ということです。

殊に、研究大会や子育て研修会の講師については、どんな人をお呼びするか、どういうテーマですすめるか、どのように講師とやりとりをするか、などご苦労も大きかったものと拝察します。

弊会ではここ数年、「持続可能な組織・活動」ということをさまざまな場面でとりあげています。研修事業についても、前年踏襲ということではなく、新たな試みがあってもいいのではないかと思います。その時にこの研究集録をお役立ていただければと思っています。地区P連の研究大会や子育て研修会は講演会でなくてはいけないという決まりもありませんし、いくつかの地区P連では参加型の研修会を開催して参加者から好評を得ているという話も聞きます。ほんとうに会員が望んでいる研修はどのような研修なのか、どういう研修を用意したら会員は積極的に参加するのかという観点で研究大会や子育て研修会を見直してみることがあってもいいのかと思います。といいながら、多くの地区P連は事務局が市町村輪番であることを考えると、わかっているけど難しいというのもよくわかります。

道P連といたしましては、少しでも地区P連の研修が運営者の負担を軽減しながらも実のあるものとなるよう支援していければと思っています。今後は地区P連と道P連がさらに連携を深めながらよい研修が行われるようになることを願います。

令和8年3月

## 北海道PTA連合会 研究集録

発 行 北海道PTA連合会  
〒060-0001  
札幌市中央区北1条西3丁目 STV時計台通ビル6階  
TEL 011-251-6937 FAX 011-210-0929  
ホームページアドレス <http://www.hokkaido-pta.jp>  
Eメールアドレス [info@hokkaido-pta.jp](mailto:info@hokkaido-pta.jp)

発行責任者 廣 瀬 堅 一 北海道PTA連合会会長  
編集責任者 城 野 文 久 北海道PTA連合会事務局長  
編集担当 杉 浦 浩 委員会教師代表（組織・連携担当—石狩市立石狩中学校長）  
(執筆 者) 増 田 昭 雄 委員会教師代表（子 育 て 担 当—小樽市立張碓小学校長）  
出 村 好 孝 北海道PTA連合会事務局次長  
椿 野 次 雄 北海道PTA連合会事務局次長  
山 村 健 史 北海道PTA連合会事務局次長

表紙写真 『 宗谷岬 』

印刷所

(表紙・製本) 株式会社三誠社 札幌市中央区北6条西15丁目3番地7

TEL 011-622-9211